

《平成28年度総合戦略実績調査》

全事業に対する総合政策審議会の評価及び意見

平成28年度「総合戦略」KPI達成状況一覧

基本目標1 産業振興による仕事づくり

具体的施策	KPI	基準値(H26)	H31年度目標	H28年度実績	目標達成率
1. 自然と歴史景観に息づく人に優しい観光地づくりと受入体制の整備	観光入込客数	5,140,000人	6,000,000人	5,099,504人	0.0%
2. 新たな視点による交流人口拡大	観光宿泊客数	535,000人	625,000人	537,889人	3.2%
3. 「仙北ツーリズム」の創出と推進	外国人観光宿泊客数	12,000人	32,000人	20,975人	44.8%
4. 農業を中核とした仙北ブランドの創出	新規就農者数	6人	15人	7人	11.1%
5. 農業の担い手育成と経営体の法人化	農業生産法人数	19法人	30法人	24法人	45.4%
6. 豊富な森林の利活用による産業振興	林業従事者数	223人	270人	223人	0.0%
7. 地場産業の育成と競争力強化	ハローワーク角館就職件数	859件	1,000件	666件	0.0%
8. 伝統工芸品産業の再生	伝統工芸品等販売額	797百万円	1,000百万円	710百万円	0.0%
9. 企業家の育成・人材の確保	新規開業・事業拡張件数	3件	20件	12件	52.9%
10. 「地方創生・近未来特区」の効果的な活用	特区関連事業所数	1件	15件	6件	35.7%

基本目標2 移住・定住対策

具体的施策	KPI	基準値(H26)	H31年度目標	H28年度実績	目標達成率
1. 情報発信の強化と移住環境の充実	移住相談件数	10件	200件	60件	26.3%
2. 特区や資源を活かした多様な人材の確保	短期移住体験参加者数	-	50人	0人	0.0%
3. 移住者・若者の市内定着の促進	新婚世帯家賃助成事業利用件数	13件	30件	29件	94.1%

基本目標3 少子化対策

具体的施策	KPI	基準値(H26)	H31年度目標	H28年度実績	目標達成率
1. 出会いの創出とマッチング機能の強化	出会いイベント開催件数 年間開催数	1件	24件	0件	0.0%
2. 子育て環境の充実と多面的な支援の強化	子育て拠点施設利用者数	1,037人	1,200人	2,212人	720.0%
3. 子育て世代の経済的支援制度の充実	出生数	159人	183人	124人	0.0%
4. 文化に育まれた地域を担う子どもたちの教育環境の充実	中学3年生英語検定3級受験率	56%	85%	69.6%	46.8%
	中学3年生英語検定3級合格率	33.70%	45%	22.1%	0.0%
	1年間に30日以上欠席した児童生徒数	13人	7人以下	12人	16.6%

基本目標4 新たな地域社会の形成

具体的施策	KPI	基準値(H26)	H31年度目標	H28年度実績	目標達成率
1. 多様な地域活動への支援強化	提案型まちづくり事業数	5件	18件	10件	38.5%
2. 安全で便利な生活環境の維持・整備	市民バス・デマンド交通利用者数	76,318人	80,000人	71,680人	0.0%
3. 若者や女性の活躍支援	男女イキイキ職場宣言事業所数	7件	20件	11件	30.8%
4. 市民が健康に暮らせる環境の整備	がん検診受診率	14%	35%	18.79%	22.8%

平成28年度「総合戦略」評価一覧

◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続
 △取組の見直し ×取組の中止・終了

基本目標1 産業振興による仕事づくり

具体的施策	KPI	事業名	各委員の評価								決定評価	ページ		
			門脇	佐藤	能美(忠)	草薨	能美(大)	池本	中村	新山			赤上	
1. 自然と歴史景観に息づく人に優しい観光地づくりと受入体制の整備	観光入込客数	観光アクセス推進事業				○	○		◎	△	○	○	1	
		観光施設Wi-Fi化事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
		トータルブランド戦略推進事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
		観光宣伝事業		○	◎	○	◎		◎	△	○	○	○	4
2. 新たな視点による交流人口拡大	観光宿泊客数	インバウンド戦略推進事業		○	◎	○	◎		◎	△	○	○	5	
		コンベンション誘致事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
		仙北市コンベンションガイド作成事業		○	○	○	○		○	△	○	○	○	7
		青少年国際交流支援事業		○	◎	○	○		○	△	○	○	○	8
		国際観光宣伝・誘客事業		○	◎	○	○		◎	△	△	○	○	9
3. 「仙北ツーリズム」の創出と推進	外国人観光宿泊客数	グリーンツーリズム促進事業		○	◎	○	○		◎	△	◎	○	10	
		教育旅行支援事業		○	○	○	○		◎	△	○	○	○	11
4. 農業を中核とした仙北ブランドの創出	新規就農者数	薬用作物等産地化推進事業		○	○	○	◎		◎	○	△	○	12	
		西明寺栗産地化推進事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
		伝統野菜復活事業		○	○	○	◎		○	○	○	○	○	14
		元気な中山間応援事業		○	○	○	◎		○	△	○	○	○	15
5. 農業の担い手育成と経営体の法人化	農業生産法人数	未来農業のフロンティア育成研修費補助金		○	○	◎	◎		○	△	○	○	16	
		新規就農総合支援事業費補助金		○	◎	○	◎		○	△	○	○	17	
		農業生産法人推進による担い手確保事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
6. 豊富な森林の利活用による産業振興	林業従事者数	秋田林業大学校研修費補助事業		○	◎	△	○		○	○	△	○	19	
		山菜ハイスクール事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
		緑の雇用創出奨励事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
7. 地場産業の育成と競争力強化	ハローワーク角館就職件数	雇用創出助成金		○	○	○	◎		○	△	○	○	22	
		仙北市工業団地調査整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		商店街賑わい支援事業		○	○	○	○			△	△	○	○	23
		中小企業活性化支援事業		○	○	○	◎		○	△	○	○	○	24
		総合産業研究所事業		○	○	◎	◎		○		○	○	○	25

平成28年度「総合戦略」評価一覧

◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続
 △取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策	KPI	事業名	各委員の評価									決定評価	ページ	
			門脇	佐藤	能美(忠)	草薨	能美(大)	池本	中村	新山	赤上			
8. 伝統工芸品産業の再生	伝統工芸品等販売額	伝統工芸品等振興支援事業		○	○	◎	◎		○	○	○	○	26	
		特産物販売促進対策事業		○	○	○	◎		○	○	○	○	27	
		伝統工芸品樺細工技能後継者育成事業		○	○	○	○		○	○	○	○	28	
		茶文化交流プロジェクト事業		○	○	○	○		○	×		○	29	
		角館春慶復活事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		白岩焼国際化構想事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9. 企業家の育成・人材の確保	新規開業・事業拡張件数	空き店舗等活用事業		○	○	○	○		△	△	○	○	30	
		育てよう起業家支援事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		空き家店舗調査・チャレンジショップ事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
10. 「地方創生・近未来特区」の効果的な活用	特区関連事業所数	企業立地奨励事業		○	○	○	○		○	○	○	○	31	
		近未来産業(ドローン)育成事業		○	○	○	◎			◎	◎	○	32	
		地方創生近未来特区による規制緩和等の推進(地方創生特区推進事業)		○	○	○	◎		◎	○		○	33	

基本目標2 移住・定住対策

具体的施策	KPI	事業名	各委員の評価									決定評価	ページ
			門脇	佐藤	能美(忠)	草薨	能美(大)	池本	中村	新山	赤上		
1. 情報発信の強化と移住環境の充実	移住相談件数	地域おこし協力隊事業		○	◎	○	○		◎	○		○	34
		集まれアーティストアートビレッジ事業		△	○		△		△	×	○	△	35
		定住対策促進事業		○	◎	○	△		◎	×	○	○	36
		首都圏大学生等就職情報提供事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2. 特区や資源を活かした多様な人材の確保	短期移住体験参加者数	まるごと仙北市民体験事業		○	○	△	△		◎	×	○	△	38
		移住支援一時金事業		○	○	△	△		◎	×	△	△	39
		機能移転誘致促進事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3. 移住者・若者の市内定着の促進	新婚世帯家賃助成事業利用件数	就職支援対策事業		○	◎	○	○		◎	○	◎	○	41
		次世代定住支援住宅助成事業		○	◎	○	◎		◎	○	◎	○	42
		定住対策新婚世帯家賃助成事業		○	◎	○	○		◎	○	○	○	43
		住宅リフォーム促進事業		○	◎	○	○		○	○	◎	○	44

平成28年度《総合戦略》評価一覧

◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続
△取組の見直し ×取組の中止・終了

基本目標3 少子化対策

具体的施策	KPI	事業名	各委員の評価								決定評価	ページ	
			門脇	佐藤	能美(忠)	草薨	能美(大)	池本	中村	新山			赤上
1. 出会いの創出とマッチング機能の強化	出会いイベント開催件数 年間開催数	出会い・結婚支援事業		○	◎	○	○		○	○	○	○	45
		ともだちになろう事業		×	○	△	○		◎	△	○	○	46
		ライフプランセミナー事業		×	○	△	○		△		○	○	47
2. 子育て環境の充実と多面的な支援の強化	子育て拠点施設利用者数	子どもの笑顔満開事業		×	○	○	△			△	△	△	48
		通常保育、一時預かり事業及び子育て支援拠点事業		○	◎	○	◎		○	△	◎	○	49
		放課後児童健全育成事業		○	○	◎	◎		△	○	◎	○	50
		医師招聘対策事業		○	○	○	○		◎		◎	○	51
3. 子育て世代の経済的支援制度の充実	出生数	特定不妊治療助成事業費補助金		○	◎	○	○		◎	△	◎	○	52
		すこやか子育て保育料助成事業		○	◎	○	○		◎		◎	○	53
		秋田内陸線通学定期補助金		○	○	○	○		○	○	△	○	54
		福祉医療費(中学生まで)		○	○	○	△		×	○		○	55
4. 文化に育まれた地域を担う子どもたちの教育環境の充実	中学3年生英語検定3級受験率	外国青年招致事業		○	○	△	○		○	○	○	○	56
		キャリア教育・ふるさと学習支援事業		○	○	○	○		○	△	○	○	57
		Get Back推進奨学金補助事業		×	◎	△	○		◎		○	○	58
	中学3年生英語検定3級合格率	外国青年招致事業		○	○	○	○		○	○	○	○	59
		キャリア教育・ふるさと学習支援事業		○	○	△	○		○	△	○	○	60
		Get Back推進奨学金補助事業		○	◎	△	○		◎		○	○	61
	1年間に30日以上欠席した児童生徒数	スクールカウンセラー活用調査研究事業		○	○	○	○		○	○	○	○	62
		キャリア教育・ふるさと学習支援事業		○	○	○	○		○	△	○	○	63
		Get Back推進奨学金補助事業		○	◎	△	○		◎		○	○	64
		子ども読書活動推進事業		○	○	○	○		◎		○	○	65
	演劇大学設置調査事業		○	○	○	○		◎		△	○	66	

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	1 産業振興による仕事づくり
具体的施策	1 自然と歴史景観に息づく観光地づくりと受入体制の整備

●KPIに対する実績評価

KPI	観光入込数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		5,140,000人			5,099,504人		
目標達成率				0.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	観光アクセス推進事業	観光課			☆	○	○	○
2	観光施設Wi-Fi化事業	観光課			△			
3	トータルブランド戦略推進事業	観光課			△			
4	観光宣伝事業	観光課			☆	○	○	○
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1 観光アクセス推進事業
----------	--------------

○取り組み内容(Plan)

観光拠点を結ぶ2次アクセス等の公共交通の利便性の充実を図り、自然環境や観光資源を最大限活かし交流人口の拡大を目指した。内陸線の松葉駅から田沢湖に向けての公共交通機関が無く、観光客にとってはアクセス空白地域のため乗り合いタクシー事業を実施。また、抱き返り路線バス廃止以降の交通手段がないことから、抱き返り紅葉祭期間の貸し切りバス運行を実施。

○どのような施策を実施したか(Do)

需用費・・・乗り合いタクシーPRチラシ作成 21,114円
委託料・・・乗り合いタクシー運行委託・抱き返り路線運行委託 2,121,346円

○結果をどう分析するか(Check)

利用実績として乗り合いタクシー事業は113回、207人の利用があった。利用者からは運転手からの観光案内等が好評であることや利用した感想としてはかなり便利であること等のアンケート結果が得られた。情報を知り得た媒体としてホームページが多かったことから、今後もホームページの充実をはかりたい。抱返りの紅葉祭期間のバス利用については、10月10日～11月7日までの期間で、1日8便、延べ利用者数3,611名の利用実績があった。利用者の75%が外国人であり、乗車平均16.7人となっている。周知については外国人向けの多言語表記を行っている。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

- ・抱返り溪谷までのバス運行を紅葉期間のみではなく、通常運行にする。
- ・利用客の75%が外国人であることから、多言語の表示の充実。
- ・満車時に増便を出す。

有識者会議による検証・評価	
意見	<p>・紅葉期間のみではなく、通常運行することは可能なのか。シーズン中の拡充を図る方がよいのでは。</p> <p>・ミズバショウ群生地と駅間の交通の便を図るシャトルバスなどは。</p>
	<p>◎</p>
評価	<p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

具体的施策No. 2 観光施設Wi-Fi化事業

○取り組み内容(Plan)

H28未実施

○どのような施策を実施したか(Do)

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

有識者会議による検証・評価	
意見	
評価	—
	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策No. 3 トータルブランド戦略推進事業

○取り組み内容(Plan)

H28未実施

○どのような施策を実施したか(Do)

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

有識者会議による検証・評価	
意見	
評価	—
	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策No. 4 観光宣伝事業

○取り組み内容(Plan)

観光誘客宣伝では、災害等の風評被害で減少した観光客を取り戻すために関係機関等と連携しながら観光PRに努める事業を展開していく。

○どのような施策を実施したか(Do)

- ・報償費・・・観光大使任命・新幹線こまちCM撮影 等 144,388円
- ・旅費・・・観光大使任命式・みちのく三大桜名所連絡協議会参加・函館蔦屋書店観光PRイベント 等 922,670円
- ・需用費・・・観光宣伝用ポジフィルム購入・各種観光パンフレット作成 等 4,428,231円
- ・役務費・・・各種パンフレット送付・各種広告・サムライの衣装クリーニング 等 2,407,185円
- ・委託料・・・刺巻ミズパショウ祭り交通整理業務委託 等 1,424,520円
- ・使用料及び賃借料・・・仙台空港パンフレットラック賃借 等 152,340円

○結果をどう分析するか(Check)

仙北市としてパンフレットやホームページ、各種イベント時に観光PRしているが、効果的には伸び悩んでいる。観光パンフレットについても、パンフレットの種類が多く、情報が重複している場合もある。利用する側としては1つにまとまっている方が見やすいとの声も聞かれる。みちのく三大桜名所連絡協議会で青森県弘前市や岩手県北上市と連携して首都圏向けのメディア廻りを行ったり、県主体で開催された函館蔦屋での観光PRイベント等に参加し、首都圏に向けて仙北市のイベント、特産品などを発信してきた。広告として雑誌広告6件と新聞・テレビ等に8件の広告を展開。仙北市の魅力を発信した。外国人、特に台湾人のツアーが増加傾向だが、日本人のツアー客が伸び悩んだ。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

- ・県及び関係市町村との連携による観光PRの継続。
- ・仙北市HP及びSNSを有効に活用したPRの継続等を行う。
- ・観光パンフレットの一部見直し。
- ・国際交流推進室との連携を図り、多言語に対応したパンフレットなどの作成。

有識者会議による検証・評価	
意見	<p>・ツアー客が伸び悩んだ要因を検討し、対応策につなげてほしい。</p> <p>・首都圏等に見られるポスターが少ないという声も聞く。</p> <p>・Actionについて。観光を求めてくる中高年はSNSやHPの取扱いに弱い。TVなどのメディアを通しての効果が大きいのでは。</p>
	○
評価	<p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	1	産業振興による仕事づくり
具体的施策	2	新たな視点による交流人口拡大

●KPIに対する実績評価

KPI	宿泊者数(人)	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		535,000		537,889			625,000
	目標達成率			3.2%			

●各施策の実施状況

具体的施策	担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1 インバウンド戦略推進事業	観光課			☆			
2 コンベンション誘致事業	観光課			△			
3 仙北市コンベンションガイド作成事業	田沢湖・角館観光連盟			☆			
4							
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	インバウンド戦略推進事業
----------	---	--------------

○取り組み内容(Plan)

外国人旅行者が訪日した際には単一の地域に留まることなく複数の県に跨って周遊する傾向があることから旅行者の動線を意識したプロモーションが必要と考える。東北を代表する桜の名所、弘前市と北上市と連携し、海外へ向けたプロモーションが必要。今年度はタイの旅行関係者のファムツアーとタイの国際観光博に出展し、本市のPR活動を行った。

○どのような施策を実施したか(Do)

旅費・・・タイ国際観光博出展 292,950円
 需用費・・・タイ語パンフレット作成 89,320円
 役務費・・・タイ語パンフレット送料 36,879円
 委託料・・・タイ旅行関係者ファムツアー委託等 1,551,879円

○結果をどう分析するか(Check)

アウトプット
 ・海外ファムツアー 目標15名 達成19名 ・外国語パンフレット作成 目標 6,000部 達成6,000部
 ・国際観光博出展目標 15万人 達成40万人
 アウトカム
 ・旅行商品造成 目標10件 達成0件 ・WEBサイト閲覧数 目標1,000クリック 達成33クリック
 ・イベントによる興味喚起率 目標80% 達成87.5%

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

・3市での連携活動の継続によるPR活動
 ・パンフレット及び看板等による外国語表記の早期実施
 ・外国人旅行者の受入体制の整備
 ・従業員等の多言語対応

有識者会議による検証・評価	
意見	・案内板の多言語化。通訳、ガイド等の養成を検討。
評価	○
	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策No. **2** コンベンション誘致事業

○取り組み内容(Plan)

H28未実施

○どのような施策を実施したか(Do)

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

有識者会議による検証・評価

意見

評価

◎取組の深化・発展
△取組の見直し

○取組内容の継続
×取組の中止・終了

-

具体的施策No. **3** 仙北市コンベンションガイド作成事業

○取り組み内容(Plan)
 田沢湖・角館観光連盟が行う。仙北市コンベンション施設ガイドブック3000部を作成。5年前の作成から変更箇所
 の修正とQRコードを活用し、ドローンの映像を添付。

○どのような施策を実施したか(Do)
 印刷製本費・・・仙北市コンベンション施設ガイド作成 697,680円

○結果をどう分析するか(Check)
 配布先:仙北市民会館、角館榊細工伝承館、仙北市角館交流センター、あきた芸術村 わらび劇場、角館温
 泉花葉館、西木温泉ふれあいプラザ クリオン、グランデールガーデン、ホテル森の風 田沢湖、花心亭しらは
 ま、プラザホテル山麓荘、駒ヶ岳グランドホテル、田沢プラトーホテル、田沢高原ホテル、ホテル湖心亭、ハイラ
 ンドホテル山荘、大仙市大曲市民会館、大仙市大曲交流センター、大仙市中仙市民会館Don-Pal、仙北ふれ
 あい文化センター、大仙市協和市民センター和ピア、美郷町公民館 計21箇所へ配布。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)
 ・各県コンベンションとの連携強化及び交流事業の実施

有識者会議による検証・評価	
意 見	・利用度等の分析により対応策を模索して ほしい。
	○
評 価	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	1	産業振興による仕事づくり
具体的施策	2	新たな視点による交流人口拡大

●KPIに対する実績評価

KPI	観光宿泊客数(人)	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		535,000			537,889		
目標達成率				3.2%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)				
1	青少年国際交流支援事業	国際交流推進室			☆	○	
2	国際観光宣伝・誘客事業	国際交流推進室			☆	○	
3							
4							
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	青少年国際交流支援事業
----------	---	-------------

○取り組み内容(Plan)

角館高校と台湾の姉妹校との交流について支援する。また海外からの交流事業の受入に関しても積極的に行う。

○どのような施策を実施したか(Do)

角館高校台湾修学旅行補助金 980,172
国際交流時記念品代 33,000
台湾屈指の進学校と同年代の青少年の日台親善交流を積極的に進めるために係る経費の助成と様々なサポートを行った。

○結果をどう分析するか(Check)

角館高校の台湾への修学旅行補助については渡航後の生徒の国際感覚に変化がみられ、国際交流事業へも積極的に取り組むようになったという報告があがってきている。また角館高校以外の交流事業に関して外務省等からの依頼で農家民宿等で年間500人超の受入を行っているが、地域をあげた国際交流事業への取り組みについて非常に積極的に行っているため一定の効果があると感じる。また国際化に対応するグローバルな人材の育成には本事業を実施し相互交流を継続することは有効であると考えます。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

交流事業に関しては受入件数をのばすことでより効果があがると考えられるので、今後も公式サイト等での情報発信や県や国との連携を強化し現状よりも多くの交流人口の受入を行うようにしていくことが重要である。また、市内の県立高校だけではなく、中学校でも姉妹校に関する取り組みを行い、早い段階から国際性を身につけることで小さな国際文化都市の実現に貢献出来ると考える。

有識者会議による検証・評価	
意見	・Planは短期間で効果がでるものではないと思うので、長い目で取組を継続すべきと考える。
評価	○
◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了	

具体的施策No. **2** 国際観光宣伝・誘客事業

○取り組み内容(Plan)

タイや台湾での旅行博やイベント等への参加や広告媒体での情報発信、など観光誘致事業を行っていくとともに多言語パンフレットの作成等を行い仙北市へ滞在している外国人観光客への受入対応をしている。

○どのような施策を実施したか(Do)

TITFタイ旅行博参加 165,400
 台湾温泉祭り参加 106,254
 台湾トップセールス 240,408
 台湾現地コーディネート及び翻訳業務 471,000
 繁体、英語パンフレット作成 1,414,800
 台湾国内発行冊子広告掲載 486,000
 国際情勢や経済状況により大きく左右される東アジアマーケットにおいて、ターゲットをしばり国や県と連携しながら誘致活動を実施した。

○結果をどう分析するか(Check)

海外からの観光客数で伸び率が高い台湾に対して積極的な施策を講じた。結果、前年対比で見ても一定の効果は出ていると感じる。またタイに関しても総数は多くはないが期待は大きい。政策的に取り組み結果が出ている部分については、今後も継続して事業を実施していくことが必要。しかしながら、受入数の少ないアジア圏以外への誘客についても市として長期的な視点で施策に取り組み、観光客数を増やすようにしなければならぬと考える。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

仙北市の特色として英語圏や中国圏以外の海外からの団体、個人旅行者も増加しているが予約可能なウェブサイトへの登録や海外の旅行会社との提携を行っているところが少ないことや、案内看板の多言語化整備も充分でないことから、国内観光と同じように誘客活動を行うだけでなく、受入体制の整備を行うことが必要である。また安全面や情報発信の点から考えてもWIFIの整備も最優先に行い、滞在しやすい環境をつくることの結果的に観光客の増加に繋がると考える。また今後はデータ収集も併せて積極的に行いデータの分析結果をもとにターゲット細分化等来訪者に合わせた対応が出来るようにしていく。

有識者会議による検証・評価	
意見	<p>・関係機関、団体や観光施設はもとより全市民的に日内外の観光客を受け入れる雰囲気づくりも必要では。</p> <p>・観光のターゲットは国内？国外？長期でターゲットをタイや台湾としている所は共感できるが、美郷町も同様に思えるので、その連携をもっと図り、効率化と差別化を図った方がよいのではないか。</p> <p>・滞在しやすい環境をつくとあるが具体的な対策は？もっと明確にする必要があると感じる。</p>
	○
評価	<p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	1	産業振興による仕事づくり
具体的施策	3	「仙北ツーリズム」の創出と推進

●KPIに対する実績評価

KPI	外国人観光宿泊客数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		12,000人			20,975人		
目標達成率				44.8%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)				
1	グリーンツーリズム促進事業	農山村体験デザイン室			☆	○	
2	教育旅行支援事業	農山村体験デザイン室			☆	○	
3							
4							
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No. **1** グリーンツーリズム促進事業

○取り組み内容(Plan)

農家民宿の開業支援や勉強会を実施、グリーン・ツーリズムに関する情報発信、周遊型イベントの実施などを行い、国内外からの誘客を支援するとともに受入態勢の整備を行う。

○どのような施策を実施したか(Do)

- ・グリーンツーリズムPRパンフレット印刷・・・1,000枚 66,960円
- ・農村周遊型イベントフライヤー作製・・・8,000枚 84,240円
- ・農村周遊型イベント会場借上料・・・7軒 70,000円
- ・仙北市農山村体験推進協議会補助金・・・100,000円
- ・秋田花まるっグリーンツーリズム推進協議会会費・・・200,000円

○結果をどう分析するか(Check)

農家民宿開業支援に積極的に取り組み、新たに市内に1軒の農家民宿が開業した。また、グリーンツーリズムの活動が総合的に評価され、農林水産省の推薦によりツーリズムEXPOへの出展や「ディスカバー農山漁村の宝」フレンドシップ賞を授賞することができた。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

今年度は農山村体験推進協議会のHP開設を計画している。それにより、市内グリーンツーリズムや農家民宿の周知宣伝を図り、さらなる集客を見込めるものと考えている。また、首都圏等で開催するイベントにも積極的に参画することで誘客が期待できる。

有識者会議による検証・評価

意見

評価

○

◎取組の深化・発展
△取組の見直し

○取組内容の継続
×取組の中止・終了

具体的施策No. **2** 教育旅行支援事業

○取り組み内容(Plan)
 教育旅行の受入および誘致支援、受入体制の強化支援、受入ネットワークのコーディネートを行う。

○どのような施策を実施したか(Do)
 ・教育旅行誘致事業旅費・・・118, 980円
 ・体験ガイドマップ印刷・・・1,700部 172, 584円

○結果をどう分析するか(Check)
 仙台地区への教育旅行誘致キャラバンを始めとした誘致事業の展開を行った。受入人数は17, 880人、学校数は173校と前年より増加している。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)
 これまで誘致を行ってきた仙台や北海道の教育旅行は時期が集中しており、受入のキャパシティ的に大幅な増加を期待することが難しくなっているため、新たに別地区への誘致を行いたい。受入機関からの要望では、関西の高校の修学旅行を呼び込むことで、秋季の集客が期待できる。

有識者会議による検証・評価	
意見	
評価	○
	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	1	産業振興による仕事づくり
具体的施策	4	農業を中核とした仙北ブランドの創出

●KPIに対する実績評価

KPI	新規就農者数(人)	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		6			7		
目標達成率				11.1%			

●各施策の実施状況

具体的施策	担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1 薬用作物等産地化推進事業	総合産業研究所			☆	◎	○	○
2 西明寺栗産地化推進事業	総合産業研究所			△	△		
3 伝統野菜復活事業	総合産業研究所			☆	○	○	○
4 元気な中山間応援事業	農山村活性化課						
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	薬用作物等産地化推進事業
----------	---	--------------

○取り組み内容(Plan)

国内需要の拡大が見込まれる薬用作物を農業経営に組み込み、農家の所得向上と経営の安定を図るため、生薬製剤メーカーと連携し薬用作物等の産地化を推進する。

○どのような施策を実施したか(Do)

- ・補助金・・・523,000円
- ・視察・・・35,120円
- ・圃場用看板、消耗品等・・・107,770円

○結果をどう分析するか(Check)

補助金が適正に執行され、市内の気候や土壌においての、薬用作物の効率的・安定的な栽培に向けた技術の向上が図られた。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

- ・栽培技術は向上しているが、手作業が多い。今後は、機械での作業工程・作業量を増やしていくよう研究・実践を重ね、高効率化を図る。
- ・耕作放棄地等を活用し、作付け規模の拡大を図る。

有識者会議による検証・評価

意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者の所得向上を図るため、作付けの拡大と継続が不可欠と考える。まだ、十分に周知されていないのも今後の課題として捉えるべきと考える。 ・栽培可能な薬草のリストアップと試植栽培を。 ・休耕田の利活用にも。 ・慎重なcheckが必要ではないか。
	<p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

具体的施策No. **2** 西明寺栗産地化推進事業

○取り組み内容(Plan)

未実施

○どのような施策を実施したか(Do)

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

有識者会議による検証・評価	
意見	
評価	—
	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策No. 3 伝統野菜復活事業

○取り組み内容(Plan)

野菜市場は、大量生産向けに改良された品種が大勢を占めているが、その一方で近年、消費の多様化・本物志向化が進み、独特の食感や、野菜本来の味や香りといった特徴を有する伝統野菜のニーズが高まる兆しがある。
こうした伝統野菜を掘り起こし、その地域の特産物として育成・普及させることで、農家の生産意欲の向上と豊かな食生活の実現に取り組む。

○どのような施策を実施したか(Do)

- ・伝統野菜の作付面積の拡大に向けた取り組み。
- ・伝統野菜の効率的な栽培に向けた勉強会。
- ・伝統野菜の新たな加工技術の研究。
- ・耕作されていない伝統野菜耕作適地と、伝統野菜の耕作意欲がある農家(特に域外)とのマッチング。

○結果をどう分析するか(Check)

この取り組みが無ければ、種子の保存すらままならない品種が発生する恐れもあったため、今後も地道に取り組んでいく必要がある。
特に新たな加工品については、まだ試行錯誤の段階であり、直ぐに市場で戦えるレベルでは無いが、加工のジャンルを問わず挑戦していく必要がある。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

伝統野菜の多くは大量生産が難しいので、少量生産故のプレミアム感を打ち出すなどの工夫が効果的と考えられる。
例えば、県内外や海外からのお客さんが多い市内農家民宿で提供するなどして、ここでしか食べられない食材として認知度を高めていくなど。

有識者会議による検証・評価	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代へ栽培の継承も含め地道な取組により本市の伝統野菜の実現を願う。 ・品目のリストアップと栽培への対応。 ・「まちおこし」の一取組としても。 ・地道に挑戦。ここでしか食べられない食材の発掘。
	○
評価	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	1	産業振興による仕事づくり
具体的施策	4	農業を中核とした仙北ブランドの創出

●KPIに対する実績評価

KPI	新規就農者数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		6人			7人		
目標達成率				11.1%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)				
1	薬用作物等産地化推進事業	総合産業研究所					
2	西明寺栗産地化推進事業	農山村活性化課			△		
3	伝統野菜野菜復活事業	総合産業研究所					
4	元気な中山間応援事業	農山村活性化課			☆	◎	
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No. **4**

○取り組み内容(Plan)

中山間地域の資源を活かした創意あふれる計画づくりや、その実践に必要な経費に対する支援を行う。

○どのような施策を実施したか(Do)

○中山間資源を活かす生産体制整備事業

【地域特産物等の生産体制の強化】 県: 1/2、市: 1/10

- ・生保内地区 3経営体 2,548千円
- ・桧木内地区 3経営体 2,483千円
- ・西明寺地区 9経営体 12,111千円
- ・中川地区 2経営体 2,874千円
- ・白岩地区 4経営体 5,137千円
- ・雲沢地区 1経営体 433千円

【水稻生産体制の再編】 県: 3/10

- ・西明寺地区 1経営体 4,502千円

○結果をどう分析するか(Check)

本事業を活用し、事業主体が中山間地域の資源を活かした園芸作物の機械・施設の導入や、水稻生産体制を整備することができた。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

機械・施設の導入だけではなく、翌年度以降の営農活動について関係機関とともに指導していく必要がある。

有識者会議による検証・評価

・平成30年以降に向け、仙北市の産業振興に大変重要な事業であるため、今後も継続してもらいたいとともに、JA等と連携して指導、販売の強化も願う。また、未実施の事業についても早々に取り組んでももらいたい。

・Doの内容では詳細が不明。

・ハード面も大事だが、ソフト面での対応も拡充。

・関連課の連携が必要。

評価

○

◎取組の深化・発展

○取組内容の継続

△取組の見直し

×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	1	産業振興による仕事づくり
具体的施策	5	農業の担い手育成と経営体の法人化

●KPIに対する実績評価

KPI	農業生産法人数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		19法人		24法人	45.4%		
目標達成率							

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)				
1	未来農業のフロンティア育成研修費補助金	農山村活性化課			☆		
2	新規就農総合支援事業費補助金	農山村活性化課			☆		
3	農業生産法人化推進による担い手確保事業	農山村活性化課					
4							
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No. **1**

○取り組み内容(Plan)

新規就農に必要な技術や、新たな部門開始に必要な技術を身に付けるため、県の各試験場において実践的な研修を行い、地域農業の優れた担い手を確保・育成するために支援する。

○どのような施策を実施したか(Do)

研修補助対象者 3名

作物コース 2年目生1名 事業費 1,200,000円 (県:630,000円 市町村:570,000円)
 畜産コース 2年目生1名 事業費 1,200,000円 (県:630,000円 市町村:570,000円)
 野菜コース 1年目生1名 事業費 1,200,000円 (県:630,000円 市町村:570,000円)

各種技術習得の研修を受けるだけでなく、営農計画の作成指導も行う。

○結果をどう分析するか(Check)

新規就農希望者が2年間の研修を実施することにより、集落の維持や存続の重要な担い手を確保出来ると思われる。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

就農地域内での交流促進、営農計画の達成に向けた資金等の支援も行う必要がある。

有識者会議による検証・評価

意見	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の農業を大きく左右する事業のため、引き続き継続してもらいたい。 ・研修生の実動への導きや、活用場の模索。
	<p>◎</p>

◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続
 △取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策No. **2**

○取り組み内容(Plan)

若者の就農意欲の換気と就農後の定着を図るため、若年農業者の経営安定支援する。

○どのような施策を実施したか(Do)

新規就農者の相談窓口
 青年等就農計画の作成指導、審査、認定
 青年就農給付金(経営開始型)申請手続き

就農後の経営状況管理
 2,250,000円 × 2件(夫婦申請)
 1,500,000円 × 3件
 750,000円 × 1件

○結果をどう分析するか(Check)

経営開始間もない新規就農者の経営が安定するまでの最長5年間を支援することにより、後継者不足の解消や青年農業者の増加に繋がる。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

要件緩和。

有識者会議による検証・評価

意見
 ・重要なことと思うため、拡充を。
 ・checkについて。啓蒙的效果を期待する。
 ・Actionについて。事業実施後における考察が必要では。
 ・補助金→新規事業者よりも経営を拡大したい事業者を対象とした方がよいのでは。新規の事業者はどちらかというと、事務手続きなどのソフト面を行政の立場で支援する方が助けになると思う。
 ・若者が就農定着するまで、見守りと指導体制づくりはモチベーションにつながると思う。

評価

○

◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続
 △取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策No. 3

○取り組み内容(Plan)

※担い手経営発展支援事業費補助金に名称変更

○どのような施策を実施したか(Do)

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

有識者会議による検証・評価	
意見	
評価	-
	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	1	産業振興による仕事づくり
具体的施策	6	豊富な森林の利活用による産業振興

●KPIに対する実績評価

KPI	林業従事者数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		223人			223人		
目標達成率							

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)				
1	秋田林業大学校研修費補助事業	農山村活性化課			◎		
2	山菜ハイスクール事業						
3	緑の雇用創出奨励事業						
4							
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No. **1**

○取り組み内容(Plan)

[秋田県林業大学校]の研修生に対し、受講料の一部を助成することにより、地域を支える若き林業技術者の育成に寄与する。

○どのような施策を実施したか(Do)

仙北市出身の研修生に研修期間内年間118,800円補助する。

○結果をどう分析するか(Check)

現在、2年目の研修のため、結果の分析ができるのは、翌年になる。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

若い林業技術者として養成された研修生の専門的な技術や知識を、受け入れ先の企業や社会が求める事により、より効果が得られる。

有識者会議による検証・評価

・受け入れ先の企業と連携できるのなら、意義ある事業と考える。

・仙北市出身の研修生で研修期間終了後、仙北市に戻ってきて、若い林業技術者として活躍することを期待。

・活用の場を見いだしてほしい。

意見
・高校でのPRは時間的にも難しいだろうが、中学などの職業選択キャリア学習などで市から補助があることをPRしておくことにより、上級学校に進学した段階での選択の一つに加えることができると思う。人材を確保するのは高校のキャリア学習時では遅いと思う。

評価

○

◎取組の深化・発展
△取組の見直し

○取組内容の継続
×取組の中止・終了

具体的施策No. **2**

○取り組み内容(Plan)

未実施

○どのような施策を実施したか(Do)

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

有識者会議による検証・評価

意見

評価

-

◎取組の深化・発展
△取組の見直し

○取組内容の継続
×取組の中止・終了

具体的施策No. 3

○取り組み内容(Plan)

未実施

○どのような施策を実施したか(Do)

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

有識者会議による検証・評価

意見

評価

-

◎取組の深化・発展
△取組の見直し

○取組内容の継続
×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	1	産業振興による仕事づくり
具体的施策	7	地場産業の育成と競争力強化

●KPIに対する実績評価

KPI	ハローワーク角館就職件数(件)	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		859		666			1,000
	目標達成率			0.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策	担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1 雇用創出助成金	商工課			☆	◎	○	○
2 仙北市工業団地調査整備事業	商工課			△	△	○	○
3 商店街賑わい支援事業	商工課			☆	◎	○	○
4 中小企業活性化支援事業	商工課			☆	◎	○	○
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No. **1** 雇用創出助成金

○取り組み内容(Plan)

企業の活性化と就職支援策として、新規に労働者を雇用した事業主に対して一定の要件のもと、助成金を交付し、雇用機会の拡大を図る。
 ・一般新規雇用助成金 1人 15万円
 ・新卒者雇用助成金 1人 30万円

○どのような施策を実施したか(Do)

新規雇用した事業主に対して雇用助成を行い、平成28年度において新卒者10名、一般求職者29名の雇用機会を創出している。

- ・申請企業数 22社
- ・申請件数 39件(第1期、第2期申請毎)
- ・交付金額 5,250,000円

○結果をどう分析するか(Check)

継続した事業実施により、制度認知度が高まってきており、前年度実績(平成27年度 新卒者7名、一般求職者14名)より大きく増加している。しかし、事業終了後(雇用開始より1年以降)の職場定着状況が把握できていない。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

事業終了後の追跡調査等、職場定着に繋がっているのか検証する仕組みが必要である。

有識者会議による検証・評価	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・職場定着状況が把握できていないとあるが、補助金目当てとならない事業とする方策を考えてほしい。 ・地元への(職場)定着しているかどうかを早く検証しなければ、助成金を出しているだけという結果になるのでは。 ・職場定着につながっているのかしっかり検証してほしい。
	○
評価	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策No. **3** 商店街賑わい支援事業

○取り組み内容(Plan)

商店街団体や5店舗以上で構成される団体が実施する商店街活性化イベントや販売促進事業を支援する。
対象経費の1/2以内30万円限度

○どのような施策を実施したか(Do)

商店街団体等が実施する集客に向けたイベントに対して支援を行い、異業種間での連携を促すとともに、中心市街地の賑わいを創出した。

- ・補助対象 2事業者
- ・補助金額 440,000円

○結果をどう分析するか(Check)

制度を活用する事業者が特定の地域に偏っているため、市内全体で周知・募集する体制が必要である。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

商工会等関係機関と連携し、広く制度周知を行い、制度活用を希望する事業者へフォローアップを行う必要がある。

有識者会議による検証・評価	
意見	<p>・3地区で商店街の状況に大差あり。形成していない所もある。対応の手法を考察することも必要。</p> <p>・趣旨が商店街団体業に十分に沿っているだろうか。疑問を感じる。</p>
	<p>○</p>
評価	<p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

具体的施策No. **4** 中小企業活性化支援事業

○取り組み内容(Plan)

市内中小企業者の起業、新分野進出、事業拡張に係る事業経費の一部を助成する。対象経費の1/5以内、100万円限度。製造業・コールセンター業・宿泊業については要件により、補助限度額を500万円まで拡大。

○どのような施策を実施したか(Do)

新規開業や新分野進出、事業拡張を目指す事業者を支援し、新たな事業展開を促進した。

・新規開業 8事業者
(業種) 飲食業(3事業者)、墓地管理業務、駄菓子製造販売、スポーツ用品販売、美容院、情報通信業

・事業拡張 4事業者
(業種) 建築板金業、製材業、ホテル業、縫製業

・補助金額 13,646,000円

○結果をどう分析するか(Check)

平成27年度より施行された制度となるが、継続した事業実施により、制度認知度が高まってきており、前年度実績(平成27年度 補助対象者6事業者、補助金額3,318,000円)を上回っている。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

制度利用者のニーズを考慮して、補助率や補助要件等見直しを行う。

有識者会議による検証・評価	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・このようなまとめ方だとわかりやすい。 ・更なる拡充を図ってほしい。
	○
評価	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	1	産業振興による仕事づくり
具体的施策	7	地場産業の育成と競争力強化

●KPIに対する実績評価

KPI	ハローワーク角館就職件数(件)	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		859		666			1000
	目標達成率			0.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策	担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1 中小企業活性化支援事業							
2 雇用創出助成金事業							
3 商店街賑わい支援事業							
4 総合産業研究所事業	総合産業研究所			☆	◎	○	○
5 仙北市工業団地調査整備事業							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	4	総合産業研究所事業
----------	---	-----------

○取り組み内容(Plan)

園芸作物の生産振興、市内農産物の販路拡大、伝統野菜の復活・普及、6次産業化の推進を図る。

○どのような施策を実施したか(Do)

- ・地場産品及び地場産加工品の販路拡大
- ・園芸作物試験圃場設置事業
- ・女性起業活動応援事業
- ・啓翁桜生産振興
- ・伝統野菜復活事業
- ・食育の推進
- ・直売所連絡協議会の運営

○結果をどう分析するか(Check)

実施した施策については、概ね、それぞれの事業規模に応じた実績が出ているが、基本目標である「産業振興による仕事づくり」には、まだ結びついていない。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

6次化に取り組んでいる農家等の、雇用や起業を促すための、商工業部門との連携。

有識者会議による検証・評価

・仙北市に直売所の設置が必要であると考え(道の駅)

・checkに「仕事づくりにはまだ結びついていない」とあるが、対策も考えてほしい。

・6次化には先見性も必要。ある程度の規模が必要か。

意見
・Doの内容はどれも地域活性化につながる可能性が高い取組である。次へつながる道筋が見えない。見通しも暗い。

評価
○

◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続
△取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	1	産業振興による仕事づくり
具体的施策	8	伝統工芸品産業の再生

●KPIに対する実績評価

KPI	伝統工芸品等販売額	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		797百万円			710百万円		
目標達成率				0.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	伝統工芸品等振興支援事業	商工課			☆	◎	○	○
2	特産物販売促進対策事業	商工課			☆	◎	○	○
3	伝統工芸品樺細工技能後継者育成事業	商工課			☆	◎	○	○
4	茶文化交流プロジェクト事業	商工課			☆	◎	○	○
5	角館春慶復活事業	商工課			△	△	○	○
6	白岩焼国際化構想事業	商工課			△	△	○	○

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	伝統工芸品等振興支援事業
----------	---	--------------

○取り組み内容(Plan)

秋田県伝統工芸品等振興補助金を活用し、角館工芸協同組合が実施する樺細工の振興に関する事業で、県が認めた事業に対し経費の一部を補助する。
対象経費の5/6以内、県2/3、市1/3の間接補助

○どのような施策を実施したか(Do)

角館工芸協同組合が行うツーリズムEXPOジャパンをはじめとした国内展示会への出展やEU及び中国における商標登録申請を支援し、樺細工の販路開拓を図るとともに、国外における樺細工の知名度向上、ブランド保護に努めた。

○結果をどう分析するか(Check)

販路拡大に向け、国内外へ積極的な事業展開していることは評価に値する。しかしそれが必ずしも販売額に結びついていない状況にある。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

今後も継続的な取り組みが必要と考えられる。
その上で、国内外の消費者ニーズに即したデザイン・商品開発も必要である。併せて理解を深める上での情報提供(パンフレット・SNS)が求められる。

有識者会議による検証・評価

意見	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な取組が必要。効果には時間がかかると思う。 ・消費者ニーズに即したデザインで商品化したら売れると思うが、時間を要するケースもあるのでは。
	<p>評価 ○</p> <p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

具体的施策No. 2 特産物販売促進対策事業

○取り組み内容(Plan)
 市内の物産提供事業者等で組織する仙北市特産品等販売協議会が行う県内外での催事への参加や首都圏等でのイベント開催などによる販売促進活動に対し、補助金を交付する。
 また、「山の楽市」を始めとした首都圏でのイベントへ参加し、市内特産物のPR及び販路開拓を支援する。

○どのような施策を実施したか(Do)
 仙北市特産品等販売協議会が行う首都圏等のイベントへの参加を支援し、市内特産物の販路開拓を推進した。
 また、相模鉄道三ツ境駅三ツ境ライフで開催された「山の楽市」など首都圏等で行われる特産品販売イベントに参加し、地場産品及び観光資源のPR活動を行い、地場産品の普及と地域の知名度向上を図った。

○結果をどう分析するか(Check)
 仙北市特産品等販売協議会においては県内外を始め、首都圏等で開催されるイベントに参加しており、市内特産物の販路拡大に寄与している。イベント参加会員に偏りが見受けられるため、広く会員が参加できるような仕組みが必要である。
 平成28年度より二俣川駅から三ツ境駅へ変更となったことに伴い、会場面積が大幅に減少した影響もあり、開催期間の売上金額は前年度に比べ減額となっているが、これまでの継続した開催により、当物産展は相模鉄道沿線の地域に深く根付いている。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)
 仙北市特産品等販売協議会については自立した活動ができるようフォローアップを行う。平成28年度より開催場所が変更となった「山の楽市」においては今までと引き続き地場産品のPR活動ができるよう関係機関と調整を行う。その他首都圏等で行われるイベントについては開催情報を収集し、市内特産物をPRする場を模索する。

有識者会議による検証・評価	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・参加できるようにもっと広く周知が必要と思う。(気軽に参加できるように) ・「イベント参加会員に偏りが見受けられるため」とあるが、理由を分析し対応するべき。 ・市が誇れる特産品は何か。以前、品川駅秋田物産館に行ったことがあるが、ミズの需要が高いと聞いた。ミズは春から秋までのスパンで収穫販売できることから、何か特産品として加工デビューできないものか。
	○
評価	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策No. **3** 伝統工芸品樺細工技能後継者育成事業

○取り組み内容(Plan)

伝統工芸品「樺細工」の製作技術を継承し将来も継続して従事する意思を有する後継者を育成するため、5年間の育成資金を交付する。育成資金は角館町樺細工振興育成協会を通じ、指導者に対し1～3年目は月額8万円、4～5年目は月額5万円を支給する。

○どのような施策を実施したか(Do)

現在、対象者が1名おり、育成資金の支給期間がH25.5.1～H30.4.30となっているが、病気療養のため研修を中断している。平成28年度については新規申請がなかった。

○結果をどう分析するか(Check)

地域の「伝統産業」を受け継ぐ後継者の確保が不可欠である。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

魅力ある産業として、所得確保が出来る制度を構築すること
(県に対し、地場産業育成の観点から後継者育成確保対策の制度創設を要望している。)

有識者会議による検証・評価	
見	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の伝統工芸の継承には特段の育成協会の力添えと、生産販売する場が少ないと思う。 ・伝統工芸の技術取得には時間を要するのでは。気長、継続的な養成策、支援、援助を必要とするのではないか。 ・広く養成。幼少期にあこがれをもつこともあるのでは。 ・小中学生に対して伝統工芸産業のすばらしさと技術伝承するための研修所又は補助などがある事をもっとPRすべきだと思う。(高校では遅い)
	○
評価	<ul style="list-style-type: none"> ◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策No. 4 茶文化交流プロジェクト事業

○取り組み内容(Plan)

茶文化に関連する産品で繋がっている関係4市(仙北市、奥州市、掛川市、多治見市)が連携して、4市の茶文化に関連した商品を各市主催のイベント等でPRし、緑茶文化の継承と発展に努め、地域経済の活性化を推進した。事業経費は関係4市より構成される茶文化プロジェクト4市連絡会の負担金となっている。

○どのような施策を実施したか(Do)

仙北市(樺細工)、奥州市(南部鉄器)、掛川市(掛川茶)、多治見市(美濃焼)の逸品を集めたセット商品を発表し、平成28年5月1日より発送を開始している。
また、関係4市を一堂に会した連絡会を開催し、今年度以降の茶文化プロジェクト事業について検討した。

○結果をどう分析するか(Check)

セット商品の発表・発売により、市の伝統的工芸品である「樺細工」のPRに寄与していると考えられる。セット商品の販売数が予定数に達していない現状があり、さらなる周知が必要である。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

ふるさと納税の返礼品等、広くセット商品を周知できるような仕掛けが必要である。

有識者会議による検証・評価	
意見	<p>・広くセット商品を周知とあるが、セット見本にコメントをつけて、いろんな所に設置しては。</p> <p>・茶の文化を広めたいのか。お茶に関連する物の販売が目的なのか、明確でない。</p> <p>・樺細工は高価なものであり、中々手が届かない。ふるさと納税の返礼などに使用する方法は良いと思う。</p>
	<p>○</p>
評価	<p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標 1 産業振興による仕事づくり

具体的施策 9 起業家の育成・人材の確保

●KPIに対する実績評価

KPI	新規開業・事業拡張件数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		3件			12件		
目標達成率				52.9%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	空き店舗等活用事業	商工課			☆	◎	○	○
2	育てよう企業家支援事業	商工課			△	△	○	○
3	空き店舗調査・チャレンジショップ事業	商工課			△	△	○	○
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No. 1 空き店舗等活用事業

○取り組み内容(Plan)

空き店舗利活用にに対し、賃借料の一部を助成する。

①商店街形成地域(角館町内指定区域)

12ヶ月まで対象経費の2/5以内、月額8万円限度

12ヶ月を超え24ヶ月までは、対象経費の1/5以内、月額4万円限度

②商店街形成地域以外

補助率及び補助額は商店街形成地域の1/2以内

○どのような施策を実施したか(Do)

空き店舗の利活用にに対して店舗賃借料の一部を支援し、空き店舗解消を促進するとともに新規創業を生み出した。

・対象事業者 2事業者(飲食業)

・補助額 329,000円

○結果をどう分析するか(Check)

制度活用による空き店舗利用は商店街の活性化に繋がっていると考えられる。制度利用が角館地域に偏っている状況があるため、西木・田沢湖地域も含め、広く市内に周知する必要がある。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

制度周知を図ると共に、商工会と連携して西木、田沢湖地区の空き店舗の洗い出しを行う。空き店舗の貸出を希望する方には、商工会HPの空き店舗情報への登録を呼びかけ、西木、田沢湖地区の空き店舗活用を促進する。

有識者会議による検証・評価

・角館、西木、田沢湖地区それぞれの地域のメリットも合わせて情報発信した方がよい。

・商店の大型化。負の遺産では。商店「街」に代わる施設ができたのも一因。新しい視点からの考察を要す。

・空き店舗の活用はどこでもやっている事業だが、限界だと思う。商店街としての立地が良いところでの空き店舗でなければ、穴埋め的に店をあけていても、いくら補助金を出しても長くは続かない。

意見

評価

○

◎取組の深化・発展

○取組内容の継続

△取組の見直し

×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	1 産業振興による仕事づくり
具体的施策	10 「地方創生・近未来特区」の効果的な活用

●KPIに対する実績評価

KPI	特区関連事業所数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		1件			6件		
目標達成率				35.7%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	企業立地奨励事業	商工課			☆	◎	○	○
2								
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1 企業立地奨励事業
----------	------------

○取り組み内容(Plan)

産業の振興と雇用の拡大を図るため、奨励事業者指定された事業者に対して奨励措置を講ずる。

- ・固定資産税相当額奨励金
10年間交付(既存施設取得、建替えは5年)、1億円限度
- ・用地取得助成金
用地取得後3年以内の操業又は操業後5年以内に取得した場合で、取得面積2,000㎡超え1万㎡未満の場合は事業所建築面積500㎡以上、取得面積1万㎡超は事業所建築面積1,000㎡以上、2,000㎡を超える面積に1㎡平均単価を乗じた額の30%以内を交付する。2,500万円限度
- ・借地助成金
借地契約額の20%を5年間交付

○どのような施策を実施したか(Do)

平成28年度において新たに1事業所を奨励事業者として指定し、指定事業所は5社となっている。

平成28年度交付実績

・固定資産相当額奨励金	3事業所	12,984,300円
・借地助成金	1事業所	639,611円

○結果をどう分析するか(Check)

奨励措置を講ずることにより、さらなる事業拡大を促進しており、雇用機会の拡大が期待できる。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

引き続き制度周知を図るとともに、過疎法などの関係法令との一体的な奨励措置を行う。

有識者会議による検証・評価

・多方面からの考察も必要。

意見

評価

○

◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続
△取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	1 産業振興による仕事づくり
具体的施策	10 「地方創生・近未来特区」の効果的な活用

●KPIに対する実績評価

KPI	特区関連事業所数(件)	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		1			6		
目標達成率				35.7%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	近未来産業(ドローン)育成事業	地方創生・総合戦略室			☆	◎	○	○
2	地方創生近未来特区による規制緩和等の推進(地方創生特区推進事業)	地方創生・総合戦略室			☆	◎	○	○
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1 近未来産業(ドローン)育成事業
----------	-------------------

○取り組み内容(Plan)

ドローン等の近未来技術を核とした「人材育成」と「産業育成」を行い、今後の仙北市の経済発展を支える1つの柱とすべく、ドローン技術とIT産業の連携による高度人材育成、事業開発等を総合的に支援することで雇用の創出と地域経済の底上げに取り組む。

○どのような施策を実施したか(Do)

- ・近未来技術を活用した新たな産業づくり支援協議会を設置し、事業創造計画を策定。(会議4回)
- ・地方創生シンポジウム(テーマ:近未来技術が拓く田舎の未来)を開催。(参加者232名)
- ・操縦士育成講座の開催。(8回開催、参加者150名、ドローン5台購入)
- ・ドローンインパクトチャレンジアジアカップin仙北市の開催(出場国7カ国、観覧者1,463名)
- ・近未来技術体験プログラムの開催。(3回、参加者48名)
- ・近未来産業創造研修プログラムの開催。(2回、参加者66名)

○結果をどう分析するか(Check)

シンポジウムや操縦士育成講座、各種プログラムの実施により、近未来技術に触れる機会を多くつくることができた。このようにドローンを活用した新たな産業振興を推進したことで、東光鉄工が製造する農業散布用ドローンの代理店として田沢モーターズが新規に登録された。また、秋田ドローンコミュニティ等のドローン活用団体との連携協定締結にもつながり、ドローン産業育成に向けた環境が整ったと考えられる。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

秋田ドローンコミュニティと連携した事業を展開することで、ドローン活用人材の集積を図る。そして、ドローン等の近未来技術を産業に結びつけていくための手法や産業活用の実例、近未来技術の活用メリットを知る機会を提供し、新分野参入や起業へのサポートを手厚くしていくことがドローン産業の育成につながっていくと考えられる。

有識者会議による検証・評価

・ドローンを活用した仕事の想定、開発を。メリットのみならず、デメリットにも目を向けて。

・小中学生を中心にもっと力を入れるべき分野だと思える。

・スポ小的感覚をもって強化していてもいいのではないだろうか。(小学校4年～高校2年まで)

意見

評価

○

◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続
△取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策No. **2** 地方創生近未来特区による規制緩和等の推進(地方創生特区推進事業)

○取り組み内容(Plan)

- ・地方創生特区の規制緩和メニューの活用及び周知を図り、企業誘致や地場産業の活性化に取り組む。
- ・特区認定事業者の進捗状況を把握し、事業実施を支援する。

○どのような施策を実施したか(Do)

- ・地方創生特区の周知ポスターを作成及び配布(100枚)
- ・国家戦略特区シンポジウムへの出展(内閣府主催)
- ・国家戦略特別区域会議への出席、内閣府との打合せ。
- ・国有林野の貸付に向けた秋田森林管理署との打合せや現地調査への同行。
- ・特定実験試験局制度の特例を活用したドローンインパクトチャレンジアジアカップの開催。
- ・ドローンと秘匿通信による図書配送の実証実験
- ・無人運転バス公道実証実験

○結果をどう分析するか(Check)

地方創生特区に指定されたことにより、これまでコンタクトがなかった事業者から問い合わせが格段に増えた。そして、農業生産法人で新たに参入したメディカルファーム仙北は、耕作放棄地を活用した菊芋生産に取り組み、加工品の販売などにも着手している。わずかながらであるが、地方創生に向けて効果があったと考えられる。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

市内事業者が特区を活用した地域活性化に取り組めるように、地域ニーズにあった新たな規制緩和を発掘し、内閣府に提案していくことが必要と考えられる。また、近未来技術の実証実験の誘致などでも、市内事業者と連携した取り組みを進めることができれば、市内での近未来技術の普及も加速すると考えられる。

有識者会議による検証・評価	
意見	・未知、未開拓の分野なので制度をよりい かした拡充を期待する。
評価	○
	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	2 移住・定住対策
具体的施策	1 情報発信の強化と移住環境の充実

●KPIに対する実績評価

KPI	移住相談件数(件)	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		10			60		
目標達成率				26.3%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	地域おこし協力隊事業	地方創生・総合戦略室			☆	◎	○	○
2	集まれアーティストアートビレッジ事業	地方創生・総合戦略室			△	△	△	△
3	定住対策促進事業	地方創生・総合戦略室			☆	◎	○	○
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No. **1** 地域おこし協力隊事業

○取り組み内容(Plan)

首都圏在住者などから地方に移住してもらい、移住した地域の地域振興につなげる。

○どのような施策を実施したか(Do)

地域おこし協力隊員 1名採用(ユニバーサルツーリズムによる地域振興)
(参考:平成27年度は2名採用済み。1名は田沢地域の活性化、もう1名は国際交流関係で採用。)

○結果をどう分析するか(Check)

市民とは違う目線での活動により、新ジャンルへのチャレンジなどが活性化している。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

各隊員が地域のニーズを吸い上げ、それに対してどのように活動するかを検討することで、より高い効果が得られると考えられる。

有識者会議による検証・評価	
意見	・新たなる視点から多面的な検証を加えて拡充してほしい。
評価	○
◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了	

具体的施策No. **2** 集まれアーティストアートビレッジ事業

○取り組み内容(Plan)
 多様な活動の場を提供し、移住の促進につなげる。

○どのような施策を実施したか(Do)
 未実施。

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果が得られるのか(Action)
 定住対策推進事業の中で包括的に移住の促進に取り組むことが効果的と考える。

有識者会議による検証・評価	
意見	・他事業とからめての展開へ。
評価	△
◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了	

具体的施策No. **3** 定住対策促進事業

○取り組み内容(Plan)
 空き家バンク制度の利用促進、首都圏等での移住フェアへの参加、移住者に対する助成、ふるさとサポーターとの情報交換等により、移住者の増加に取り組む。

○どのような施策を実施したか(Do)
 ・空き家バンク制度の運営
 ・移住フェア参加(2回)。ふるさとサポーター会議の開催(1回)
 ・移住者が新たに取得した住宅の固定資産税相当分を初年度から3年間助成(6件)
 ・移住促進ガイドブック「おかえり！」作成配布(500冊)

○結果をどう分析するか(Check)
 空き家登録数11件、情報利用登録者数25件、成約数3件となり、移住者の増加に寄与したと考えられる。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)
 登録された空き家はすぐに住める状態でないことが多いため、成約に結びつくことがなかなか難しい状況にある。空き家及び移住者対策として、空き家を対象にしたリフォーム助成などを検討することが必要と考える。また、移住希望者からの相談内容は多岐にわたっているため、各部署と連携した取り組みが必要。

有識者会議による検証・評価	
意見	・ネットでの登録活用が必要では。 ・「おかえり！」のタイトルに違和感を覚える人もいます。 ・移住希望者の「意」を把握した上での説明や対応が大事。
	○
評価	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標 2 移住・定住対策

具体的施策 1 情報発信の強化と移住環境の充実

●KPIに対する実績評価

KPI	移住相談件数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		10件		60件			
目標達成率				26.3%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	首都圏大学生等就職情報提供事業	商工課			△	△	○	○
2								
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No. 1 首都圏大学生等就職情報提供事業

○取り組み内容(Plan)

実施事業無し

○どのような施策を実施したか(Do)

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

有識者会議による検証・評価

意見

評価

—

◎取組の深化・発展
△取組の見直し

○取組内容の継続
×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	2 移住・定住対策
具体的施策	2 特区や資源を活かした多様な人材の確保

●KPIに対する実績評価

KPI	短期移住体験参加者数(人)	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		4			0		
目標達成率				0.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	まるごと仙北市民体験事業	地方創生・総合戦略室			☆	☆	☆	☆
2	移住支援一時金事業	地方創生・総合戦略室			☆	◎	○	○
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1 まるごと仙北市民体験事業
----------	----------------

○取り組み内容(Plan)

空き家等を活用した生活体験等を提供し、移住につなげる。

○どのような施策を実施したか(Do)

平成28年度は秋田県が実施した短期移住体験事業(交通費を助成)を活用し、仙北市では木羽葺き体験を通じた移住体験を提供したが利用者はゼロ。

(参考:平成27年度は地方創生先行型(交付金)を活用し、「農林業で田舎暮らし体験事業」を実施。本格的な移住体験を提供するため、利用者は3日以上滞りで農林業体験を必須とした内容で実施。利用者は1名のみ。)

○結果をどう分析するか(Check)

他市にない体験内容を組み入れることで、仙北市の特徴、魅力を移住者に伝えたい考えだったが、移住希望者にとっては需要のない体験だったと考えられる。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

短期の移住体験ではなく、より移住者への支援を手厚くすることが移住促進につながると考える。

有識者会議による検証・評価

意
見

- ・まずは訪れてもらう。体験してもらう。利用者の生の声から希望に添えるプログラムを開発したかどうか。
- ・木羽葺き体験はどこでもやっている。ある意味かなり魅力を必要とする。年代を絞り込んでのPRが必要と思う。
- ・体験内容の選択見直し。
- ・移住者はある程度この地に心を動かし始めている。長い支援が必要である。また、地域力も問われてくる。

評価

△

◎取組の深化・発展
○取組内容の継続
△取組の見直し
×取組の中止・終了

具体的施策No. **2** 移住支援一時金事業

○取り組み内容(Plan)

市外から転入し、住宅を取得した世帯又は賃貸住宅に居住した世帯に対し一時金を交付し、本市への移住を促進し、定住人口の確保につなげる。

○どのような施策を実施したか(Do)

移住のために、市外から転入した空き家バンク制度の情報利用登録者が、住宅を取得又は賃貸住宅に居住した世帯を対象に一時金(10万円)を交付。

■実績3世帯

○結果をどう分析するか(Check)

移住を促進するために創設した補助金だったが、本補助金による移住促進の効果は低いと考えられる。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

空き家バンク制度を活用した移住を促進するためには、一時金の助成ではなく、空き家を購入し、移住する世帯を対象としたリフォーム助成を創設することが、空き家の減少を図りつつ移住を促進することが可能と考える。

有識者会議による検証・評価	
意見	<p>・人口減少問題については、市外ではなく県外からの移住を促進することが重要と思います。本県出身者(特に本市出身者で他県に住んでいる方)への移住促進が先ではないかと思います。新規大学卒業者へのアピールも重要と思います。</p> <p>・checkにある「効果が低い」と考えられる理由も検討しては。</p> <p>・補助金、助成金の多い少ないのみが移住に関係するのではないと考える。やはり、その地の魅力や移住者の思いではないか。</p>
	<p>評価</p> <p style="text-align: center;">△</p> <p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	2	移住・定住対策
具体的施策	2	特区や資源を活かした多様な人材の確保

●KPIに対する実績評価

KPI	短期移住体験参加者数(人)	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		4		0			50
	目標達成率			0.0%			

●各施策の実施状況

	具体的施策	担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	機能移転誘致促進事業	商工課			△	△	○	○
2								
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	機能移転誘致促進事業
----------	---	------------

○取り組み内容(Plan)

実施事業無し

○どのような施策を実施したか(Do)

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

有識者会議による検証・評価	
意見	
評価	-
	◎取組の深化・発展 △取組の見直し
	○取組内容の継続 ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	2	移住・定住対策
具体的施策	3	移住者・若者の市内定着の促進

●KPIに対する実績評価

KPI	新婚世帯家賃助成事業利用件数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		13件		29件	94.1%		
目標達成率							

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	就職支援対策事業	商工課			☆	◎	○	○
2								
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	就職支援対策事業
----------	---	----------

○取り組み内容(Plan)

事業名を「就職支援・職場定着対策事業」に改め、高校生の地元就職への関心を高めるため、事業所視察会を開催し、地元企業を視察する機会を提供した。また、就労支援としてハローワークの求人情報を市内コンビニ、各庁舎等に配置した。

○どのような施策を実施したか(Do)

平成28年度において近隣高校の3年生を対象とした市内事業所視察会を6月に開催し、3班に分かれて市内12事業所を視察した。また、1月には角館高校の2年生を対象とした事業所視察会を開催し、市内4事業所を視察した。

就職サポートとして角館高校の生徒を対象とした就職面接対策講座を開催した。フリーアナウンサーの綿引かおる氏を講師として招き、面接試験における基本について講義した。

就労支援としてハローワーク大曲、角館、盛岡より発行される週刊求人情報を市内コンビニ13カ所、各庁舎へ配置した。

また、ハローワーク角館分については市HPIにも掲載している。

事業所視察会 64人参加(うち3年生51人、2年生13人)

就職面接対策講座 45人参加(うち3年生32人、2年生13人)

○結果をどう分析するか(Check)

事業所視察会及び面接講座について実施後にアンケートを実施しており、受講した生徒からは好評の声を頂いている。また、視察会に参加した10名が市内事業所に就職しており、地元就職への一定の効果はあったと考えられる。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

引き続き事業所視察会、就職面接対策講座を開催し、市内企業と高校生のマッチングを図るとともに、就職後のフォローアップなど新規就職者の早期離職を抑制する取り組みが必要である。

有識者会議による検証・評価

・市外への若者の流出防止策と定住人口増への方策として充実させてほしい。

・角館高校をターゲットとした取組が94.1%と効果を発していると思う。

・ふるさとで活躍したいと考える高校生を対象としたふるさと教育にも多いに期待する。

・ふるさとで生き生きと活躍している先輩の話を聞くことも一案。

意見

評価

○

◎取組の深化・発展
△取組の見直し

○取組内容の継続
×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	2 移住・定住対策
具体的施策	3 移住者・若者の市内定着の促進

●KPIに対する実績評価

KPI	新婚世帯家賃助成事業利用件数(件)	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		13			29		
目標達成率				94.1%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	次世代定住支援住宅助成事業	地方創生・総合戦略室			☆	◎	○	○
2	定住対策新婚世帯家賃助成事業	地方創生・総合戦略室			☆	◎	○	○
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1 次世代定住支援住宅助成事業
----------	-----------------

○取り組み内容(Plan)

定住・移住する若い世代の住宅取得を助成し、市内定着を促進する。

○どのような施策を実施したか(Do)

・子育て世帯や45歳以下の夫婦が、必要経費を全額負担して新築又は建売住宅を購入する場合に助成。
実績 定住世帯15件、移住世帯1件

○結果をどう分析するか(Check)

当初、移住促進を目的に創設した助成金だったが、対象者を年度途中で拡大したことにより、事業効果が薄れたと考えられる。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

人口減少により空き家は今後も増加傾向にあるため、新築に対する助成だけではなく、空き家を購入し、移住及び定住する若い世代を対象としたリフォーム助成を創設することで、空き家の減少を図りつつ市内定着を進めることも必要と考える。

有識者会議による検証・評価	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・新築、建売の住宅購入だけでなく、空き家の購入リフォーム助成が必要と思う。 ・持ち家へとつなげていく方策も必要。 ・空き家を購入した人への援助を手厚く。
	<p>評価 ○</p> <p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

具体的施策No. **2** 定住対策新婚世帯家賃助成事業

○取り組み内容(Plan)
 仙北市内の民間賃貸住宅に居住する新婚世帯に対し、家賃の一部を助成することにより、若者の定住を促進する。

○どのような施策を実施したか(Do)
 ・新婚世帯が賃貸住宅等で暮らす場合の家賃を助成。
 継続世帯 14件(27年度からの継続世帯)
 新規世帯 15件

○結果をどう分析するか(Check)
 新婚世帯の他市町村への流出減少につながっていると考えられる。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)
 結婚支援に関する事業や定住対策推進事業等と連携した周知に取り組み、若者の定住につなげていくことが必要と考える。

有識者会議による検証・評価	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・貸し家から持ち家へは流出人口をストップさせる一要因にもなりえる。 ・男性の所得が低いこともいろんな面に影響していると思う。 ・周知活動に力をいれてほしい。
	○
評価	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	2	移住・定住対策
具体的施策	3	移住者・若者の市内定着の促進

●KPIに対する実績評価

KPI	新婚世帯家賃助成事業利用件数(件)	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
			13		29		
目標達成率				94.1%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	住宅リフォーム促進事業	建設課			☆	○	○	○
2								
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No. **1** 住宅リフォーム促進事業

○取り組み内容(Plan)

市内事業者を利用した住宅の修繕、増改築、下水道接続を支援します。

○どのような施策を実施したか(Do)

補助金交付件数 140件	タイプ	一般世帯		市外からの定住世帯	
	補助率等	一般世帯	子育て世帯	一般世帯	子育て世帯
	基本補助率	5% (限度額10万円)	10% (限度額20万円)	10% (限度額20万円)	15% (限度額30万円)
	上乗せ補助	融資設備費の 5% (限度額5万円) 下水道施設等に接続する場合は一律 10万円			
	合計(最大)	25万円	35万円	35万円	45万円

○結果をどう分析するか(Check)

交付した補助金17,036,000円に対し、リフォーム発注総額(補助対象事業費)は355,915,866円にのぼり、直接効果で約21倍の経済効果があった。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

他市町村で実施している耐震診断・改修補助を検討する。

有識者会議による検証・評価

・市内事業者を利用した促進は、相乗効果があったと思う。手厚い施策である。

意見

評価

○

◎取組の深化・発展
△取組の見直し

○取組内容の継続
×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	3 少子化対策
具体的施策	1 出会いの創出とマッチング機能の強化

●KPIに対する実績評価

KPI	出会いイベント開催件数 年間開催数(件)	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		1			0		
目標達成率				0.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策	担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1 出会い・結婚支援事業	地方創生・総合戦略室			☆	◎	○	○
2 ともだちになろう事業	地方創生・総合戦略室			△	△	△	△
3 ライフプランセミナー事業	地方創生・総合戦略室			△	△	△	△
4							
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1 出会い・結婚支援事業
----------	--------------

○取り組み内容(Plan)

あきた結婚支援センターと協力し、独身者に対する出会い・結婚支援に取り組む。

○どのような施策を実施したか(Do)

・あきた結婚支援センターが主催する、マッチング事業への参加。

○結果をどう分析するか(Check)

あきた結婚支援センターと連携することで、広域的な結婚支援を実施することができた。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

あきた結婚支援センターとの連携を進めつつ、結婚サポーターや出会い応援隊の団体等の協力を仰ぎ、仙北市独自のマッチングや相談会などを実施していくことが必要と考える。

有識者会議による検証・評価

・市単独の対応策の拡充を。

・出会いの場、チャンスの創出を。あまり堅苦しくない形で。

・ともだち～結婚支援へ。最初から結婚支援は参加者にとってこの足をふみそう。

意見

評価

○

◎取組の深化・発展
△取組の見直し

○取組内容の継続
×取組の中止・終了

具体的施策No. **2** ともだちになろう事業

○取り組み内容(Plan)

多彩なイベント開催で出会いのプロデュースに取り組む。

○どのような施策を実施したか(Do)

未実施。

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

出会い・結婚支援事業の中で包括的に取り組んで行くことがより効果的と考える。

有識者会議による検証・評価

意見

評価

○

◎取組の深化・発展
△取組の見直し

○取組内容の継続
×取組の中止・終了

具体的施策No. 3 ライフプランセミナー事業

○取り組み内容(Plan)

ライフプランを描くお手伝いと出合いの演出支援に取り組む。

○どのような施策を実施したか(Do)

未実施。

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

出合い・結婚支援事業の中で包括的に取り組んで行くことがより効果的と考える。

有識者会議による検証・評価

意見

評価

○

◎取組の深化・発展
△取組の見直し

○取組内容の継続
×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	3	少子化対策
具体的施策	2	子育て環境の充実と多面的な支援の強化

●KPIに対する実績評価

KPI	子育て支援拠点施設利用者数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		1037人		2212人			1200人
	目標達成率			720.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策	担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1 子どもの笑顔満開事業	子育て推進課			△	○	○	○
2 通常保育、一時預かり事業及び子育て支援拠点事業	子育て推進課			☆	○	○	○
3 放課後児童健全育成事業	子育て推進課			☆	○	○	○
4							
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	子どもの笑顔満開事業
----------	---	------------

○取り組み内容(Plan)

市民の子ども・子育てへの関心を高めるとともに、子どもの豊かな感性の育成を目指して交流イベントを開催する。

○どのような施策を実施したか(Do)

平成27年度に国交付金を活用して実施し、参加者から好評を得たところであり、H28年度に継続実施を計画したが、財源確保等の事情により実施できなかった。

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

有識者会議による検証・評価	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て環境の充実を図るうえでも一時預かり、放課後等の事業に予算を計上し、是非実施すべきと思う。 ・豊かな感性を育成することは、一朝一夕でできることではない。長い時間と努力を必要とする事項。 ・財源確保等の事情とあるが、連効性が期待できることでもないから検討を。 ・人づくり、まちづくりの根幹となりうること。
	<p>評価</p> <p style="text-align: center;">△</p> <p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

具体的施策No. 2 通常保育、一時預かり事業及び子育て支援拠点事業

○取り組み内容(Plan)

通常保育のほか、一時的な保育ニーズに対応した保育サービスを提供する。
また、在宅で子育てを行う家庭を対象として、育児に対する相談・助言や、交流の場を提供する子育て支援拠点事業を実施する。

○どのような施策を実施したか(Do)

通常教育保育…市立認可保育園6園(直営)、へき地保育園1園(休園中)、幼稚園1園(休園中)の運営
※このほか、市内では私立認定こども園2園、私立幼稚園1園が運営されている。
※上記施設に、3月時点で計889人が入所。

一時預かり…市立認可保育園3園(直営)、私立認定こども園2園(委託)の運営
※上記施設に、年間延べ222人が利用。

子育て支援拠点(小規模施設型)…市立認可保育園3園(直営)、私立認定こども園2園(自主)の運営
※上記施設に、年間延べ親子697組が利用。

○結果をどう分析するか(Check)

保育施設の入受体制については、児童数は減少しているものの保育ニーズの低年齢化が進み、特に0歳児については定員超過する入所申込みがあり、年度途中から待機児童が発生している。定員拡大のためには、施設設備改修や保育士の増員が必要であるが、特に保育士の確保が極めて厳しい状況にある。
質の面では、保育と教育を一体的に提供する認定こども園の普及が計画的に進んでいる。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

「待機児童解消」が直面する最大課題となっており、そのためにはまず保育士確保が絶対条件となる。
このため「懸案となってきた非常勤保育士の待遇改善」については、抜本的な改善策の一つである「園運営の法人化」を推進することがあげられる。これにより全員とはいかないまでも相当数に正規雇用の道が開かれ待遇面での向上が図られることが期待される。

有識者会議による検証・評価

	<p>・数値のみではなく、内容面の充実も期待したい。</p> <p>・保育環境の整備は着々と進んでいると思うが、保育士の確保を。人的環境整備に力を注ぐことが大事。保育教諭の給料をアップするなど、モチベーションをあげることも大切。保育園、幼稚園の職員待遇が、角館、西木、田沢湖の格差が生じている状況にはどうしたものか。認定こども園を進め、一本化を。</p> <p>見 ・待機児童解消のため、現場の保育教諭にゆとりがあることは必須。また、積極的に育休制度をとれるような職場づくりも一緒に考えていくべき。</p>
評価	<p style="text-align: center;">○</p> <p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

具体的施策No. **3** 放課後児童健全育成事業

○取り組み内容(Plan)

昼間労働等の都合で家庭に保護者のいない小学生に対し、放課後に適切な遊びや生活の場を与え健全育成を図る。

○どのような施策を実施したか(Do)

放課後児童クラブ(白樺児童会、ポプラ学園、かくのだて児童クラブ、マロンクラブ、ひのきっこクラブ、かしわっこクラブ、中川っ子クラブ)を運営している。
 ※H28年9月に中川っ子クラブの運営を開始したことにより、全小学校区で放課後児童クラブを整備した。
 ※実利用児童数312人(月平均)

○結果をどう分析するか(Check)

核家族化や共働き家庭の増加等を社会背景として、平成27年度より小学6年生までに利用対象を拡大(従前は3年生まで)したことにより利用者数が増加し、受入体制を拡充するなどして対応している。
 クラブによってはこれ以上の受入が厳しい状況にある。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

定員により受入れが厳しくなっていることに関しては、クラブ毎に抱える諸条件を踏まえて、施設設備の増設、条件の整った空き施設の活用、申込者に対する必要度審査による利用決定、利用料金の見直しなどの対応が考えられるところであり、保護者理解も得ながら検討を進める必要がある。

有識者会議による検証・評価	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・単に場の提供となっていないだろうか。さらなる充実を。 ・人づくりに直結することを。 ・放課後の児童クラブは充実しているとの声がある。安心して働く就労の条件づくりの一環として良い取組。しかし、質や内容は十分だろうか。担当する職員の中にも、心得のある職員を配置するなど、児童の健全な育成につながる大事な時間と時期である。
	○
評価	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	3	少子化対策
具体的施策	2	子育て環境の充実と多面的な支援の強化

●KPIに対する実績評価

KPI	子育て拠点施設利用者数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		1,037人		2,212人			1,200人
目標達成率				720.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策	担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1 医師招聘対策事業	保健課			☆	○	○	○
2							
3							
4							
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	医師招聘対策事業
----------	---	----------

○取り組み内容(Plan)

仙北市内の医療機関への勤務を希望する学生に修学資金を貸与し、医師等医療スタッフの充実を図る。また、平成23年度より協力型研修施設である田沢湖病院に、神奈川県けいゆう病院から研修医を受け入れている。平成28年度からは杏林大学医学部附属病院からの研修医を受け入れている。

○どのような施策を実施したか(Do)

・地域医療振興協会訪問時土産代 5,670円
 ・地域医療振興協会訪問旅費 96,400円
 ・研修医受入用アパート賃借料 600,000円
 ・仙北市医師等修学資金貸付金 28,920,000円
 地域医療振興協会(東京)へは、医師確保関係要望活動として、田沢湖病院長、医療連携政策監、医療局次長の3名が訪問。このほか、病院事業会計においても秋田大学附属病院、岩手医科大学附属病院をはじめ、あらゆる伝手により各大学病院等へ要望活動を行っている。研修医受入用アパートは、平成28年度は研修医4名を受け入れた。仙北市医師等修学資金貸付金は、既存の貸付のほかに、新たに医師志望者1名、看護師志望者4名への貸付を行った。

○結果をどう分析するか(Check)

医師確保関係の要望活動については、継続的に行うことが重要であり、効果が表れるまで時間がかかるものと認識している。研修医の受入れについては、受入れを継続して実施していくことで信頼関係を築き、将来の医師招聘に繋がるものと認識している。修学資金貸付金については、順調に貸付実績を増やしており将来の医師等人材確保が期待できるものとなった。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

粘り強く継続して実施していくことが最も効果的である。

有識者会議による検証・評価	
意見	・研修医が行きたい！働きたいと思えるような病院にしてほしい。 ・地元から医学生、医師が輩出できるような方策も。
	○
評価	○
◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了	

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	3	少子化対策
具体的施策	3	子育て世代の経済的支援体制の充実

●KPIに対する実績評価

KPI	出生数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		159人			124人		
目標達成率				0.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	特定不妊治療助成事業費補助金	保健課			☆	○	○	○
2								
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	特定不妊治療助成事業費補助金
----------	---	----------------

○取り組み内容(Plan)

仙北市に居住し、特定不妊治療を受けている夫婦に対し費用の一部を助成することにより、妊娠出産を支援すると共に、不妊に悩む夫婦の経済的負担の軽減を図る。

○どのような施策を実施したか(Do)

平成28年度助成件数 2件
 特定不妊治療費補助金 171,220円

○結果をどう分析するか(Check)

特定不妊治療を受けている夫婦の経済的負担の軽減、妊娠出産の支援に繋がっていると思われる。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

助成事業の啓発を強化し周知の徹底を図る。

有識者会議による検証・評価	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・助成を利活用しやすい方策が必要では。 ・子どもを望まない夫婦もあれば、欲しくてもできない夫婦が増えて悩んでいる現状にある。そのことを気軽に相談し、アドバイスしている専門員の周知も必要では。
	評価 ○
◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了	

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	3	少子化対策
具体的施策	3	子育て世代の経済的支援制度の拡充

●KPIに対する実績評価

KPI	出生数(人)	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		159		124			183
	目標達成率			0.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策	担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1 すこやか子育て保育料助成事業	子育て推進課			☆	○	○	○
2							
3							
4							
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	すこやか子育て保育料助成事業
----------	---	----------------

○取り組み内容(Plan)

保育・教育施設等の保育料助成し経済的支援を行うことで、子どもを生み育てやすい環境をつくり、出生数の増加を目指し少子化に歯止めをかける。

○どのような施策を実施したか(Do)

秋田県との共同事業で、一定の所得制限下で、市民税所得割課税状況及び戸籍上の出生順位により、保育料額に対して全額～1/4の助成を実施している。
平成28年度からは、さらに新第3子の出生により第2子以降を全額助成している。
市では、これにさらに上乗せし、既存第2子以降を全額助成している。

○結果をどう分析するか(Check)

従前制度に加え、平成28年度から制度拡充したことにより、県内及び全国的にも高水準の経済的負担軽減を行ってきた。しかし、所得制限に該当する者にとっては一切の助成が受けられないため、所得階層による助成の有無に不公平感の声が寄せられている。
出生数については、3～5年の実績を評価していく必要がある。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

出産の動機付けを拡大するためにも、所得によらず公平感のある助成制度に改善する必要がある。そのため、平成29年度からは、従前の所得制限者にも一部(第1子1/8、第2子以降1/4)の助成を開始することとした。これにより、全国的にも最高水準の保育料助成制度となる。
しかし、これによって出生数の増加につながるのかは未知数であり、検証は3～5年の出生実績をみていく必要がある。

有識者会議による検証・評価

意見	<p>・出生とは別次元の子育て、人づくり等の面からの考察、対応が必要か。</p> <p>・子どもを産み育てやすい経済的な支援環境は充実している。しかし、所得制限があり、その対象者にはこどもを産むことに止めがかかる。平等感があつた方が少子化にはつながると思う。</p>
	<p>◎取組の深化・発展 △取組の見直し</p>
評価	<p>○</p> <p>○取組内容の継続 ×取組の中止・終了</p>

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	3	少子化対策
具体的施策	3	子育て世代の経済的支援制度の充実

●KPIに対する実績評価

KPI	出生数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		159人			124人		
目標達成率				0.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	秋田内陸線通学定期補助金	地方創生・総合戦略室			☆	◎	○	○
2								
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No. **1** 秋田内陸線通学定期補助金

○取り組み内容(Plan)

内陸線で通学する中高校生に対して助成し、市内定着を図る。

○どのような施策を実施したか(Do)

・通学のために秋田内陸線を利用する市内中高生等の定期券購入に対し助成。
実績 21名

○結果をどう分析するか(Check)

通学に伴う他市町村への流出を減少させ、学生の定着が図られたと考えられる。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

通学補助だけでなく、多方面から子育て世代の経済的支援を充実させることで、市内定着を図る必要があると考える。

有識者会議による検証・評価

・市内定着には職場の確保が必要となる。また、給料面も課題となる。

・中高生を定住させるための施策としてはいかがなものか。中高生は将来を担う大事な宝。どこへ進学するなどは少し広くても良いのでは。そこでふるさと教育を受け、高校卒業後、定着を図るといった生徒達には、選択肢の幅を広く、選択の自由を定着に結びつけてはどうか。

意見

評価

○

◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続
△取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	3	少子化対策
具体的施策	3	子育て世代の経済的支援制度の充実

●KPIに対する実績評価

KPI	出生数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		159人			124人		
目標達成率				0.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)				
1	福祉医療費(中学生まで)	市民生活課			☆		
2							
3							
4							
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	福祉医療費(中学生まで)
----------	---	--------------

○取り組み内容(Plan)

子育て支援の観点から、通常の福祉医療費のほか単独事業として福祉医療費助成を拡充し手厚く支給する。

○どのような施策を実施したか(Do)

市内に住所を有する乳幼児から中学生まで、また単独事業として中学生の入院医療費及び歯科通院医療費の自己負担分を助成。
 市民税非課税世帯は全額支給し、課税世帯については自己負担を上限千円/月額とする。
 H28年度の実績は、27件で支給額は155,125円
 H28年度の福医療費支給実績額は207,611,568円

○結果をどう分析するか(Check)

福祉医療費の制度が改正され、8月から県による助成が開始したため、市事業としては4月から7月分までの短期で終了となった。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

有識者会議による検証・評価	
意見	
評価	○
	◎取組の深化・発展 △取組の見直し
	○取組内容の継続 ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	3	少子化対策
具体的施策	4	文化に恵まれた地域を担う子どもたちの教育環境の充実

●KPIに対する実績評価

KPI	中学3年生英語検定3級受験率	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		56%		69.6%			85%
	目標達成率			46.8%			

●各施策の実施状況

具体的施策	担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1 外国青年招致事業	教育総務課			☆	○	○	○
2 キャリア教育・ふるさと学習支援事業	北浦教育文化研究所			☆	○	○	○
3 Get Back推進奨学金補助事業	教育総務課				○	○	○
4							
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	外国青年招致事業
----------	---	----------

○取り組み内容(Plan)

外国語指導助手を配置し、英語に対する興味をもてる質の高い授業の実現と国際社会に対応できる人材の育成を目指し、市内児童生徒の英語教育におけるコミュニケーション能力等の育成を図る。

○どのような施策を実施したか(Do)

【外国青年招致事業】・・・14,251,390円
 3人・ジョセフ先生(角館地区)、ネイサン先生(田沢湖地区)、アレクサンダー先生(西木地区)
 外国語指導助手報酬・・・11,669,874円 共済費・・・1,735,864円 旅費(費用弁償)・・・554,112円
 JETプログラム人員割金(負担金)・・・291,540円
 【外国語活動助手(一般非常勤職員)】・・・2,059,143円
 一般非常勤職員賃金及び通勤手当(1人)・・・1,949,771円
 旅費(費用弁償)・・・109,372円

○結果をどう分析するか(Check)

外国語活動助手1名とともに、市内3地域に1人ずつ計3名のALTを配置し、市内児童生徒の英語教育におけるコミュニケーション能力を高めるほか、外国人との触れ合いの機会を充実させた。このような取り組みにより、市内児童生徒の国際理解や外国語に対する関心や理解が高まり、英検の受験率も向上してきている。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

現在、小学校5・6年生で外国語活動(年35コマ)が行われているが、平成32年度からは新学習指導要領がスタートし、小学校3・4年生で外国語活動(年35コマ)、5・6年生で外国語科(年70コマ)が実施される。平成30・31年度が移行期間となり、平成32年度から本格実施になる新指導要領に対応するためには、ALTと外国語活動助手の増員がぜひとも必要となる。
 また、市内児童生徒の英語教育におけるコミュニケーション能力を高めるほか、異文化理解を進めるために、新規事業として「英語が話せる仙北キッズ育成事業」(仮称)の実施を検討中。

有識者会議による検証・評価

意見	・英語力即アップとはならなくても意識付け、関心の高揚、異文化にふれるなどの効果が期待されると思う。
	・今後ますます必要となる事業だと思う。都会との地域格差をうめるにも強化継続してほしい。
見	・国際教養大学とも連携はとれないだろうか。
	・外国語指導助手配置はかなりの経費がかかっている。仙北市在住で英語の指導力をもった人材の発掘はできないか。またそれぞれの学校に配置されている英語の先生の指導力では補足できない状況なのか。
評価	○

◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続
 △取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策No. 2 キャリア教育・ふるさと学習支援事業

○取り組み内容(Plan)

市内小・中学校において、キャリア教育・ふるさと学習に係る活動を充実させ、各学校の特色ある取り組みを支援する。

○どのような施策を実施したか(Do)

○キャリア教育の視点を重視したふるさと学習の推進
 【小学校・7校】・・・1,334,964円
 ①角館小(陶芸体験他) ②中川小(米作り体験他) ③白岩小(伝承行事参加他) ④生保内小(ふるさと探検他) ⑤神代小(漬物作り体験他) ⑥西明寺小(鎌足和紙制作体験他) ⑦桧木内小(地域写生会他)
 【中学校・5校】・・・1,446,601円
 ①角館中(武家屋敷案内活動) ②生保内中(大学・専門学校訪問) ③神代中(職場体験他) ④西明寺中(鎌足和紙制作体験他) ⑤桧木内中(紙風船制作打ち上げ体験他)

○結果をどう分析するか(Check)

仙北市の小・中学校の教育目標である「ふるさとを愛し、豊かな心と健やかな体を持ち、確かな学力を身に付けた仙北の子ども」のうち、特にふるさとへの愛着と誇りをもち望ましい職業観・勤労観を身に付けた児童生徒の育成が図られた。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

長期的視野に立った場合、当事業の目的は、将来ふるさと仙北市にかえり、ふるさとの良さを活かして起業、就業するような人材を育成することにある。こうしたことから、各学校の事業目的と事業内容、その成果について十分な聞き取りを行い、効果的な支援内容を検討する必要がある。

有識者会議による検証・評価	
意見	<p>・人づくり、まちづくりに有能な人材の育成等の面から対応した方がよいのでは。</p> <p>・Actionに「将来ふるさと仙北市にかえり、ふるさとの良さを活かして起業、就業するような人材を育成することにある。」とあるが、目的が飛躍的すぎないか。そうならないとこの事業は失敗なのか。</p> <p>・小中で重複するような内容はさげたい。小学校では内容も充実しているが、中学での鎌足和紙制作体験は単に時間つぶしと思う。</p> <p>・小中学校でのふるさと教育は、その子どもたちにとって最も心にしみる年齢と考える。自分のふるさとでどんな経験をしながら、その良さを実感したのか。将来の定住につながる大事な時間である。単発的ではなく、学校の中で一年～三年間のカリキュラムの中できちんと組み立てて指導してほしい。</p>
評価	○
	<p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

具体的施策No. **3** Get Back推進奨学金補助事業

○取り組み内容(Plan)

育英奨学資金の返還をする人のうち、仙北市に居住して、市の内外を問わず就労している人の償還を免除し、仙北市への定住を促進する。

○どのような施策を実施したか(Do)

免除決定の審査がH29年度から実施となるので実績なし。

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

有識者会議による検証・評価	
意見	・地域とのつながりや定住化に向けた大事な事業と考える。今後に期待。
評価	○
	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	3	少子化対策
具体的施策	4	文化に恵まれた地域を担う子どもたちの教育環境の充実

●KPIに対する実績評価

KPI	中学3年生英語検定3級合格率	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		33.7%			22.1%		
目標達成率				0.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	外国青年招致事業	教育総務課			☆	○	○	○
2	キャリア教育・ふるさと学習支援事業	北浦教育文化研究所			☆	○	○	○
3	Get Back推進奨学金補助事業	教育総務課				○	○	○
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	外国青年招致事業
----------	---	----------

○取り組み内容(Plan)

外国語指導助手を配置し、英語に対する興味をもてる質の高い授業の実現と国際社会に対応できる人材の育成を目指し、市内児童生徒の英語教育におけるコミュニケーション能力等の育成を図る。

○どのような施策を実施したか(Do)

【外国青年招致事業】・・・14,251,390円
 3人・ジョセフ先生(角館地区)、ネイサン先生(田沢湖地区)、アレクサンダー先生(西木地区)
 外国語指導助手報酬・・・11,669,874円 共済費・・・1,735,864円 旅費(費用弁償)・・・554,112円
 JETプログラム人員割金(負担金)・・・291,540円
 【外国語活動助手(一般非常勤職員)】・・・2,059,143円
 一般非常勤職員賃金及び通勤手当(1人)・・・1,949,771円
 旅費(費用弁償)・・・109,372円

○結果をどう分析するか(Check)

外国語活動助手1名とともに、市内3地域に1人ずつ計3名のALTを配置し、市内児童生徒の英語教育におけるコミュニケーション能力を高めるほか、外国人との触れ合いの機会を充実させた。このような取り組みにより、市内児童生徒の国際理解や外国語に対する関心や理解が高まり、英検の受験率も向上してきている。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

現在、小学校5・6年生で外国語活動(年35コマ)が行われているが、平成32年度からは新学習指導要領がスタートし、小学校3・4年生で外国語活動(年35コマ)、5・6年生で外国語科(年70コマ)が実施される。平成30・31年度が移行期間となり、平成32年度から本格実施になる新指導要領に対応するためには、ALTと外国語活動助手の増員がぜひとも必要となる。
 また、市内児童生徒の英語教育におけるコミュニケーション能力を高めるほか、異文化理解を進めるために、新規事業として「英語が話せる仙北キッズ育成事業」(仮称)の実施を検討中。

有識者会議による検証・評価

意見	・英語力即アップとはならなくても意識付け、関心の高揚、異文化にふれるなどの効果が期待されると思う。
	・今後ますます必要となる事業だと思う。都会との地域格差をうめるにも強化継続してほしい。
見	・国際教養大学とも連携はとれないだろうか。
	・外国語指導助手配置はかなりの経費がかかっている。仙北市在住で英語の指導力をもった人材の発掘はできないか。またそれぞれの学校に配置されている英語の先生の指導力では補足できない状況なのか。
評価	○
	◎取組の深化・発展 △取組の見直し
	○取組内容の継続 ×取組の中止・終了

具体的施策No. 2 キャリア教育・ふるさと学習支援事業

○取り組み内容(Plan)

市内小・中学校において、キャリア教育・ふるさと学習に係る活動を充実させ、各学校の特色ある取り組みを支援する。

○どのような施策を実施したか(Do)

○キャリア教育の視点を重視したふるさと学習の推進
 【小学校・7校】・・・1,334,964円
 ①角館小(陶芸体験他) ②中川小(米作り体験他) ③白岩小(伝承行事参加他) ④生保内小(ふるさと探検他) ⑤神代小(漬物作り体験他) ⑥西明寺小(鎌足和紙制作体験他) ⑦桧木内小(地域写生会他)
 【中学校・5校】・・・1,446,601円
 ①角館中(武家屋敷案内活動) ②生保内中(大学・専門学校訪問) ③神代中(職場体験他) ④西明寺中(鎌足和紙制作体験他) ⑤桧木内中(紙風船制作打ち上げ体験他)

○結果をどう分析するか(Check)

仙北市の小・中学校の教育目標である「ふるさとを愛し、豊かな心と健やかな体を持ち、確かな学力を身に付けた仙北の子ども」のうち、特にふるさとへの愛着と誇りをもち望ましい職業観・勤労観を身に付けた児童生徒の育成が図られた。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

長期的視野に立った場合、当事業の目的は、将来ふるさと仙北市にかえり、ふるさとの良さを活かして起業、就業するような人材を育成することにある。こうしたことから、各学校の事業目的と事業内容、その成果について十分な聞き取りを行い、効果的な支援内容を検討する必要がある。

有識者会議による検証・評価	
意見	<p>・人づくり、まちづくりに有能な人材の育成等の面から対応した方がよいのでは。</p> <p>・Actionに「将来ふるさと仙北市にかえり、ふるさとの良さを活かして起業、就業するような人材を育成することにある。」とあるが、目的が飛躍的すぎないか。そうならないとこの事業は失敗なのか。</p> <p>・小中で重複するような内容はさげたい。小学校では内容も充実しているが、中学での鎌足和紙制作体験は単に時間つぶしと思う。</p> <p>・小中学校でのふるさと教育は、その子どもたちにとって最も心にしみる年齢と考える。自分のふるさとでどんな経験をしながら、その良さを実感したのか。将来の定住につながる大事な時間である。単発的ではなく、学校の中で一年～三年間のカリキュラムの中できちんと組み立てて指導してほしい。</p>
評価	○
	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策No. **3** Get Back推進奨学金補助事業

○取り組み内容(Plan)

育英奨学資金の返還をする方のうち、仙北市に居住して、市の内外を問わず就労している方の償還を免除し、仙北市への定住を促進する。

○どのような施策を実施したか(Do)

免除決定の審査がH29年度から実施となるので実績なし。

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

有識者会議による検証・評価	
意見	・地域とのつながりや定住化に向けた大事な事業と考える。今後に期待。
評価	○
	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	3	少子化対策
具体的施策	4	文化に恵まれた地域を担う子どもたちの教育環境の充実

●KPIに対する実績評価

KPI	1年間に30日以上欠席した児童生徒数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		13人		12人			7人以下
	目標達成率			16.6%			

●各施策の実施状況

具体的施策	担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1 スクールカウンセラー活用調査研究事業	北浦教育文化研究所			☆	○	○	○
2 キャリア教育・ふるさと学習支援事業	教育総務課			☆	○	○	○
3 Get Back推進奨学金補助事業	教育総務課				○	○	○
4							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	スクールカウンセラー活用調査研究事業
----------	---	--------------------

○取り組み内容(Plan)

児童生徒の安全・安心な教育環境や教育相談体制を充実させ、不登校児童生徒数の減少を図る。

○どのような施策を実施したか(Do)

【スクールカウンセラー活用調査研究事業】

スクールカウンセラー謝礼金・・・306,000円

旅費(費用弁償)・・・9,760円

負担金(秋田県臨床心理士会)・・・12,600円

【不登校児童生徒に関する報告】

毎月、市内小中学校に不登校児童生徒数やその状況・対応等について報告させ、指導主事等による適切な助言・指導や関係機関との連携等を図っている。

○結果をどう分析するか(Check)

適応指導教室(さくら教室)を設置して不登校児童生徒の集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的な生活習慣の改善等の適応指導を行うとともに、臨床心理に関する専門的な知識を有するカウンセラーを配置して教育相談体制の充実を図ったことにより、わずかではあるが不登校児童生徒数の減少が図られた。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

今後も適応指導教室事業やスクールカウンセラー活用調査研究事業を継続し、不登校傾向の児童生徒の早期発見と適切な対応、福祉やスペース・イオ等の関係機関との連携を更に推進していくことにより、更なる不登校児童生徒数の削減につながるものとする。

有識者会議による検証・評価

意見	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校のみならず問題行動等への対応、減少へとスクールカウンセラーを活用してほしい。 ・幼少期の教育が重要となってくるのでは。(家庭教育も含めて) ・不登校児童の家庭環境(親の在り方)なども含めて対応していく必要がある。
	<p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

具体的施策No. 2 キャリア教育・ふるさと学習支援事業

○取り組み内容(Plan)

市内小・中学校において、キャリア教育・ふるさと学習に係る活動を充実させ、各学校の特色ある取り組みを支援する。

○どのような施策を実施したか(Do)

○キャリア教育の視点を重視したふるさと学習の推進

【小学校・7校】・・・1,334,964円

①角館小(陶芸体験他) ②中川小(米作り体験他) ③白岩小(伝承行事参加他) ④生保内小(ふるさと探検他) ⑤神代小(漬物作り体験他) ⑥西明寺小(鎌足和紙制作体験他) ⑦桧木内小(地域写生会他)

【中学校・5校】・・・1,446,601円

①角館中(武家屋敷案内活動) ②生保内中(大学・専門学校訪問) ③神代中(職場体験他) ④西明寺中(鎌足和紙制作体験他) ⑤桧木内中(紙風船制作打ち上げ体験他)

○結果をどう分析するか(Check)

仙北市の小・中学校の教育目標である「ふるさとを愛し、豊かな心と健やかな体を持ち、確かな学力を身に付けた仙北の子ども」のうち、特にふるさとへの愛着と誇りをもち望ましい職業観・勤労観を身に付けた児童生徒の育成が図られた。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

長期的視野に立った場合、当事業の目的は、将来ふるさと仙北市にかえり、ふるさとの良さを活かして起業、就業するような人材を育成することにある。こうしたことから、各学校の事業目的と事業内容、その成果について十分な聞き取りを行い、効果的な支援内容を検討する必要がある。

有識者会議による検証・評価	
意見	・キャリア教育、ふるさと学習に係る活動が単発的でマンネリ化していないか。メニューの選択にも目を向けてみるべき。
評価	○
	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策No. 3 Get Back推進奨学金補助事業

○取り組み内容(Plan)

育英奨学資金の返還をする方のうち、仙北市に居住して、市の内外を問わず就労している方の償還を免除し、仙北市への定住を促進する。

○どのような施策を実施したか(Do)

免除決定の審査がH29年度から実施となるので実績なし。

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

有識者会議による検証・評価	
意見	
評価	○
	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	3	少子化対策
具体的施策	4	文化に育まれた地域を担う子どもたちの教育環境の充実

●KPIに対する実績評価

KPI	1年間に30日以上欠席した児童生徒数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		13人			12人		
目標達成率				16.6%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	子ども読書活動推進事業	学習資料館			☆	◎	○	○
2								
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	子ども読書活動推進事業
----------	---	-------------

○取り組み内容(Plan)

学習資料館と学校図書館が連携し、子どもの読書活動を支援することを目的とする。仙北市内小・中学校の学校図書館の図書を購入し、提供する。

○どのような施策を実施したか(Do)

仙北市内各小・中学校へ1学級につき20冊程度の図書を提供した。
平成28年度実績 購入冊数 1,740冊 購入金額 3,107,898円
(内訳)

◆角館小学校 271冊 583,055円 ◆中川小学校 132冊 226,687円 ◆白岩小学校 90冊 194,086円
◆生保内小学校 182冊 323,978円 ◆神代小学校 161冊 258,595円 ◆西明寺小学校 137冊 226,726円
◆桧木内小学校 132冊 258,787円 ◆角館中学校 239冊 421,110円 ◆生保内中学校 119冊 161,849円
◆神代中学校 98冊 194,233円 ◆西明寺中学校 90冊 161,654円 ◆桧木内中学校 89冊 97,128円

○結果をどう分析するか(Check)

計画どおり図書の提供を行った。
学校図書館の図書標準冊数に対する達成率は学校により差がある。
標準冊数を超えている学校は古い情報の図書を廃棄し、標準冊数より大幅に少ない学校は、学校と学校図書館支援員が協力して図書の購入を進めるなど、蔵書の適正な管理が必要と分析する。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

学校図書館支援員を増員し、1校当たりの訪問回数が増えることにより、古い情報の図書の廃棄や、新しい図書の購入が進む。それにより学校図書館の標準冊数に対する達成率が高まる。また、児童・生徒のニーズに沿った図書が増えると、子供たちにとって学校図書館が魅力あるものになり、利用向上につながる。その結果、提供した図書をより有効に活用することができる。

有識者会議による検証・評価

・市内の全中学生(小学生)に図書カードを配布し、読書への関心を高めるのはどうでしょうか。

・読書活動は学校教育の一環として指導した方が効果があると思う。教育現場で読書をする時間をセッティングするとか。教育現場の中の流れに組み入れることが大切。

意見

評価

○

◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続
△取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	3	少子化対策
具体的施策	4	文化に育まれた地域を担う子どもたちの教育環境の充実

●KPIに対する実績評価

KPI	1年間に30日以上欠席した児童生徒数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
			13人		12人		
目標達成率							

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)				
1	演劇大学設置調査事業	生涯学習課			◎	◎	
2							
3							
4							
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	演劇大学設置調査事業
----------	---	------------

○取り組み内容(Plan)

わらび座と連携した演劇大学開学の可能性調査を推進し、子どもたちの豊かな表現力向上に向けた環境づくりを推進する。

○どのような施策を実施したか(Do)

演劇大学の開学の可能性について課内で検討を行った。しかし、すぐに演劇大学の開学を目指すのではなく、わらび座などと連携し、演劇講座やサマースクールの的な体験事業を開催し、市民等が演劇に触れる機会作り、演劇に対する関心を高めることが必要だと話し合われた。

○結果をどう分析するか(Check)

参考となる事例等を調べられず、事業を検討するための資料を揃えることが出来なかった。そのため、演劇大学の開学の可能性については、検討が進められていない状況。まずは、市民等の演劇に対する関心を高めることが必要だと課内で検討されたので、今後は市民が演劇に触れる機会を作るため、講座等の開催を検討。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

担当内で検討された事業を実施するために、わらび座等と連携して開催するため協力体制を整えることが必要だと考えられる。

有識者会議による検証・評価	
意見	<p>・演劇大学とはどんなものか。大学となるものを創り出すことか。</p> <p>・Checkに「参考となる事例等」とあるが、市独自のものを創り出していくことが大事。また「市民が演劇にふれる機会を作る」とあるが、生のものにふれることは大事。また、市民で作るミュージカルやオペラなどでもできるのでは。</p>
	<p>○</p>
評価	<p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	4	新たな地域社会の形成
具体的施策	1	多様な地域活動への支援強化

●KPIに対する実績評価

KPI	提案型まちづくり事業数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		5件			10件		
目標達成率				38.5%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	地域運営体活動推進費交付金事業	企画政策課			☆	○	○	○
2	協働によるまちづくり提案型事業	企画政策課			☆	○	○	○
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	地域運営体活動推進費交付金事業
----------	---	-----------------

○取り組み内容(Plan)

市民の自主的、主体的な活動により、地域が抱えている様々な課題を解決したり、所得や生活基盤の向上を図るための事業を行うことで、元気に住みやすく魅力ある地域にするための地域自治組織である地域運営体に財政的支援を行う。

○どのような施策を実施したか(Do)

【地域運営体活動推進費交付金】

- ・田沢地域運営体「荷葉」・・・3,473,900円
- ・西明寺地域運営体・・・3,399,909円
- ・白岩地域運営体・・・3,524,440円
- ・生保内地域運営体「嶽の会」・・・4,742,172円
- ・桧木内地域運営体・・・2,197,605円
- ・中川地域運営体・・・1,284,416円
- ・神代地域運営体・・・3,351,621円
- ・角館まちづくり地域運営体・・・4,826,145円
- ・雲沢地域運営体・・・1,334,652円

【提案型特別交付金】

- ・田沢地域運営体「荷葉」・・・2,252,900円(1件:企業向け研修プログラム実践事業)

○結果をどう分析するか(Check)

地域ごとの課題解決や魅力増進等に向けた事業が展開され、自主的なまちづくりの推進を図ることができた一方、運営体で行う事業と市で行う事業の棲み分けがうまくできなかったために、スムーズな事業の執行ができなかったといった課題もあった。

また、近年の提案型特別交付金制度では、特定の運営体にその提案が偏っているため、通常の交付金によって地域の問題解決はできても、提案型による地域の活性化については進んでいるとは言えない。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

事業の棲み分けについては、市の担当、運営体の担当レベルで、計画段階から事前の情報共有がより図られる必要がある。そのために、事務局(企画政策課)とサポートセンターの役割の明確化も必要である。

提案型交付金制度については、やり方が分からないためになかなか提案に踏み込めないということも考えられるため、実績のある運営体からその手法について披露してもらう場も必要である。運営体の高齢化という問題もあるため、若年層にも関わってもらう仕組みづくりも必要。

有識者会議による検証・評価

・地域で大きな差があるとも言われている。実施団体等への丸投げもあり?と聞いた。

・運営体の内容が地域により差がありすぎる。交付金目当てのところもあるので、かなり見直しが必要では。

意見

評価

△

◎取組の深化・発展
△取組の見直し

○取組内容の継続
×取組の中止・終了

具体的施策No. 2 協働によるまちづくり提案型事業

○取り組み内容(Plan)

市民等団体が地域の活性化や地域課題の解決に向け、自ら企画し実施するまちづくりへの財政支援を行う。補助金は対象事業費の3分の2までとし、上限を30万円とする。(仙北市総合戦略の移住・定住、少子化対策に係る取組事業の場合は、40万円を上限とする。)継続事業については補助率・上限額を縮小する。

○どのような施策を実施したか(Do)

【提案型補助金】

- ・田沢湖駅前を活性化するイベントと環境美化事業
こまちの会 220,000円
- ・刺巻水ばしろう祭開催事業
刺巻水ばしろう祭実行委員会 220,000円
- ・八鎌カタンコの会夏祭り事業
八鎌カタンコの会 169,000円
- ・2017ミニスキーワールドカップ in たざわ湖スキー場
CRYINGTIGER秋田支部 200,000円

○結果をどう分析するか(Check)

平成28年度の申請件数は平成27年度と比較し1件減少した。近年、新規事業の件数が減少傾向にある。提案型補助金の制度について、市民団体等へ更なる周知を図ることで、その利活用を促進する必要がある。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

今後も広報や市HPを活用した提案型補助金の周知に努めるとともに、継続して市民団体等が自発的に取り組むまちづくり事業への支援を行い、地域づくりに主体的に関わる意識や、問題意識を持つことの必要性等に気づいてもらうことが必要。その実績が更なる発展につながるものとする。

有識者会議による検証・評価	
意見	<p>・市民への周知対策を。</p> <p>・Checkに新規事業の件数が減少傾向とあるが、その要因を分析し、対策を。</p> <p>・Actionに「地域づくりに主体的に関わる意識や、問題意識を持つことの必要性等に気づいてもらうことが必要」とあるが、地域住民として切実に感じる部分。</p>
	○
評価	<p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続</p> <p>△取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標 4 新たな地域社会の形成

具体的施策 1 多様な地域活動への支援強化

●KPIに対する実績評価

KPI	提案型まちづくり事業数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		5件			10件		
目標達成率				38.5%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	市民参加型インフラ維持整備事業	建設課			☆	◎	○	○
2								
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No. 1 市民参加型インフラ維持整備事業

○取り組み内容(Plan)

住民が自ら行う軽微なインフラ整備を支援する

○どのような施策を実施したか(Do)

原材料支給 18団体 1,686,011円

○結果をどう分析するか(Check)

インフラ整備が進み、そのニーズも年々増えている。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

現在は原材料の支給だけであるが、機械リースなどの借上料も事業に含めることが出来れば、インフラ整備の進捗もより加速できるのではないかと。

有識者会議による検証・評価	
意見	・インフラ整備の具体例や活用団体は。この記述からは概要等がわからない。
評価	○
◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了	

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	4	新たな地域社会の形成
具体的施策	2	安全で便利な生活環境の維持・整備

●KPIに対する実績評価

KPI	市民バス・デマンド交通利用者数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		76,318人			71,680人		
目標達成率				0.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	地域公共交通対策事業	企画政策課			☆	○	○	○
2								
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	地域公共交通対策事業
----------	---	------------

○取り組み内容(Plan)

民間バス事業者の路線廃止に伴い、地域と学校、医療機関等をつ結ぶ市民バス及びデマンド型乗合タクシーの運行を行う。

○どのような施策を実施したか(Do)

【市民バス】指定管理業者への委託による運行

- ①向生保内線:運行日数 295日 大人利用者 5,236人 子供利用者 2,304人
- ②中川線及び下延八割線:運行日数 295日 大人利用者 14,781人 子供利用者 19,401人

【デマンド型乗合タクシー】民間タクシー業者への運行業補助

- ①西木北部:運行日数 294日 大人利用者 6,100人 子供利用者 281人
- ②西木南部:運行日数 294日 大人利用者 5,650人 子供利用者 15人
- ③神代:運行日数 277日 大人利用者 1,880人 子供利用者 7,270人
- ④白岩:運行日数 295日 大人利用者 4,060人 子供利用者 4,702人

○結果をどう分析するか(Check)

神代地区と白岩地区で運行しているデマンド型乗合タクシーや中川線及び下延八割線の市民バスについては子供の利用者が多く、学校の通学に利用されていることが分かる。人口減少が続くなか、一定以上の利用者がありニーズの高い事業である。

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

停留所の新規設置やダイヤ改正などにより市民の利便性がより高まるよう運行していくことで本事業の必要性が高まると考えている。また、年々増えている免許返納者への割引制度の活用を推奨することでさらなる利用者増に繋げたい。

有識者会議による検証・評価	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が利用しやすいような対策をさらに進めてほしい。 ・PDCAが良好と思う。
	<p style="text-align: center;">○</p>
評価	<p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	4	新たな地域社会の形成
具体的施策	2	安全で便利な生活環境の維持・整備

●KPIに対する実績評価

KPI	市民バス・デマンド交通利用者数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		76,318人		71,680人			80,000人
	目標達成率			0.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策	担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1 道路維持補修事業	建設課			☆	◎	○	○
2							
3							
4							
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No. 1 道路維持補修事業

○取り組み内容(Plan)

- ・舗装修繕、側溝修繕等の維持管理適正化を図る
- ・橋りょうの適正管理を図る

○どのような施策を実施したか(Do)

- ・道路維持費
舗装補修工事(パッチング) 12件 As使用量 244t 補修面積 3,000㎡
舗装補修、側溝修繕等工事 13件
H28事業費 33,564,532円
- ・橋りょう維持費
橋りょう補修工事 2橋
H28事業費 2,110,320円

○結果をどう分析するか(Check)

最低限の維持は実施しているが、まだまだ十分な適正化を図るには至っていない。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

道路施設の経年劣化速度に維持補修が追いついていない状態なので、予算措置も含めた適切な計画をもとに適正化を図っていくことが必要。

有識者会議による検証・評価

・同時期に作った道路等は同じ頃に補修等の時期を迎えるはず。先々を見据えた対応と予算化を。時を経れば劣化スピードも速まるので可能な範囲で早期の対応を。

意見

評価

○

◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続
△取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	4	新たな地域社会の形成
具体的施策	2	安全で便利な生活環境の維持・整備

●KPIに対する実績評価

KPI	市民バス・デマンド交通利用者数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		76,318人			71,680人		
目標達成率				0.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	高齢者世帯等除雪支援事業	長寿支援課			☆	◎	○	○
2	外出支援サービス事業	長寿支援課			☆	◎	○	○
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	高齢者世帯等除雪支援事業
----------	---	--------------

○取り組み内容(Plan)

自力で除雪することが困難な高齢者世帯等に対して除排雪や雪下ろしの費用の一部を助成することにより、冬期間安心して生活ができるよう支援

○どのような施策を実施したか(Do)

・住宅から公道までの除排雪用として20,000円分利用券
 ・住宅屋根雪下ろし用として15,000円分利用券(仙北市内を6地区に分け(上檜木内・檜木内・西明寺神代・田沢・生保内・角館)積雪量が概ね100cmを超え増加が見込まれる場合に対象)
 平成28年度実績 除雪利用券決定者数 283件
 住宅屋根雪下ろし券決定者数 28件(上檜木内地区・檜木内地区・田沢地区)

○結果をどう分析するか(Check)

事業を始めて3年が経過したが、1年目は除雪作業を行うことができる事業者が少なかった為、利用券が発行されても、未利用の方、また、対象者の条件から外れる方も多かったが、2年目以降は見直しされ、事業者として、個人でも業者登録が可能となったこと及び利用対象者の条件も拡大された為、利用者が利用し易くなったと認識する。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

今後も、支援が受けることができない、支援が必要な高齢者世帯等の見守り、安否確認、実態把握にもつながらる事業であり、冬期間の雪の不安を軽減し生活の質の向上が図られるためには、地域の協力が必要と考える。

有識者会議による検証・評価	
意見	<p>・安心安全な市民生活に直結することを。必要とする人に援助の手がさしのべられるようにしてほしい。</p> <p>・一人暮らしの老人が多いところの見守り等については、民生委員、警察、社協、包括などの連携が必要と思う。</p>
	<p>◎</p>
評価	◎
<p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>	

具体的施策No. 2 外出支援サービス事業

○取り組み内容(Plan)

要介護高齢者又は、障がい者等が老衰・病弱・傷病等による臥床のため、一般交通機関の利用が不可能である場合に居宅から医療機関等への移送サービスを行う。

○どのような施策を実施したか(Do)

・仙北市社会福祉協議会への委託業務

・利用者に対しては、利用料を無料とし、利用回数は月4回迄

・委託料は年間委託料の他、利用時の送迎距離及び待機時間に応じて算定される

平成28年度 利用者数 7名 延べ利用回数 42回

○結果をどう分析するか(Check)

現在、外出支援車1台で対応している。利用者の利用日、送迎距離も考慮し、かち合わないようしながら運行されている。利用人数が増えてくると対応が困難になることも考えられる。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

臥床している高齢者又は障がい者が居宅から医療機関等へ通院するための移送サービスを利用することにより、身体機能を維持でき、可能な限り在宅生活が続けられるよう支援している。ストレッチャー付きの介護タクシーは、市内に1事業所あるが、利用回数が増えると経済的負担が多くなるので軽減するためにも事業を継続していくことが必要

有識者会議による検証・評価	
意見	<p>・checkに「利用人数が増えてくると対応が困難になることも考えられる。」とあるが、今後利用が見込まれるのであれば、今からその対策を練るべき。</p>
	○
評価	<p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	4	新たな地域社会の形成
具体的施策	2	安全で便利な生活環境の維持・整備

●KPIに対する実績評価

KPI	市民バス・デマンド交通利用者数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		76,318人		71,680人			80,000人
	目標達成率			0.0%			

●各施策の実施状況

具体的施策	担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1 新防災システム導入事業	総合防災課			△			
2							
3							
4							
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	新防災システム導入事業
----------	---	-------------

○取り組み内容(Plan)

未実施

○どのような施策を実施したか(Do)

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

有識者会議による検証・評価	
意見	
評価	-

◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続
 △取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	4	新たな地域社会の形成
具体的施策	3	若者や女性の活躍支援

●KPIに対する実績評価

KPI	男女イキイキ職場宣言事業者数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		7件		11件			20件
	目標達成率			30.8%			

●各施策の実施状況

具体的施策	担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1 男女共同参画推進事業	企画政策課			☆	○	○	○
2							
3							
4							
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	男女共同参画推進事業
----------	---	------------

○取り組み内容(Plan)

男女が社会の対等な構成員として社会のあらゆる分野で共に活動に参画し、利益を得、責任を担う社会を築き上げるため啓発等の事業を実施する。

○どのような施策を実施したか(Do)

直面する少子化社会のなかでの女性活躍推進について考える機会を提供するため「男女共同参画社会づくり基礎講座」を開催し、69人が参加した。また、第3次男女共同参画計画を策定した。
そのほか、地域女性活躍推進事業交付金を活用し、女性活躍推進アンケートの実施及び女性の活躍推進交流会を開催した。

○結果をどう分析するか(Check)

今回開催した男女共同参画社会づくり基礎講座では、「超少子化社会が問う地域の未来」をテーマとしたが、参加人数は69人となっており平日に開催した講座としては多いと捉えている。また、第3次男女共同参画計画策定時の市民アンケートでは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、反対が61%となっており男女共同参画への意識は高まっている。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

本事業で開催する交流会や座談会について、より多くの方に参加してもらうため周知方法について様々な手法を検討する必要がある。限られた予算で最大の効果を得るため、男女共同参画推進委員や女性活躍推進協議会の委員からの意見も活かし取り組みたい。

有識者会議による検証・評価

・男女の差異なく生活できる社会の構築は重要。女性の社会進出により子育ての課題等があれば克服の対策を。

・9/27の交流センターでの取組は良かったが、開催日は土日が良いと思う。

意見

評価

○

◎取組の深化・発展

○取組内容の継続

△取組の見直し

×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	4	新たな地域社会の形成
具体的施策	3	若者や女性の活躍支援

●KPIに対する実績評価

KPI	男女イキイキ職場宣言事業所数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		7件			11件		
目標達成率				30.8%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	仙北市子育て支援拠点事業	子育て推進課			☆	○	○	○
2								
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	仙北市子育て支援拠点事業
----------	---	--------------

○取り組み内容(Plan)

在宅で子育て中の親子が自由に気軽に集い、相互に育児相談や情報交換といった交流を行える場を提供することで、子育ての不安や負担の解消につなげるとともに、保護者同士のネットワーク化を図る。

○どのような施策を実施したか(Do)

角館児童館で、週3回、1日5時間程度開設し活動を行う。

- ①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
 - ②子育て等に関する相談・援助の実施
 - ③地域の子育て関連情報の提供
 - ④子育て及び子育て支援に関する講習等の実施。
- 利用料無料。専任アドバイザー2名配置。

○結果をどう分析するか(Check)

平成27年度利用者数は2041人であったが、平成28年度利用者数は2212人(親子1106組)となった。在宅児童数が減少している中で利用増加しているのは、利用者一人当たりの利用回数が増えているため、その要因としては、利用者ニーズを把握したうえで活動内容の充実化に努めていることや、広報によるPR以外にフェイスブック等のコミュニケーションツールの活用によって、交流の輪が少しずつ広がり利用につながっているものと思われる。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

核家族化の進展等により、子育てに不安や孤独を感じる保護者は今後増加していくものと思われる。そこで活動の充実化が望まれることから、専任アドバイザーのスキル向上を図っていく必要がある。

有識者会議による検証・評価

- ・アドバイザーのスキル向上以上に利活用の度合いをあげることが大事では。
- ・子育て世代の不安解消につなげられるようなサロンの施設があれば。(使用しなくなった建物の利活用)
- ・多世代交流館の中にある保育園施設を、子育て真中にある母さんたち解放し、子育て親子の交流の場としてはどうか。

見

評価

○

- ◎取組の深化・発展
- 取組内容の継続
- △取組の見直し
- ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	4	新たな地域社会の形成
具体的施策	3	若者や女性の活躍支援

●KPIに対する実績評価

KPI	男女イキキ職場宣言事業所数	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		7件		11件			20件
	目標達成率			30.8%			

●各施策の実施状況

具体的施策	担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1 若手・女性起業応援事業	商工課			△	△	○	○
2							
3							
4							
5							

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No. 1 若手・女性起業応援事業

○取り組み内容(Plan)

実施事業無し

○どのような施策を実施したか(Do)

○結果をどう分析するか(Check)

○どうすればより効果を得られるのか(Action)

有識者会議による検証・評価	
意見	
評価	
	◎取組の深化・発展 △取組の見直し
	○取組内容の継続 ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	4	新たな地域社会の形成
具体的施策	4	市民が健康に暮らせる環境の整備

●KPIに対する実績評価

KPI	がん検診受診率	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		14%			18.79%		
目標達成率				22.8%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	健康づくり推進員活動事業	保健課			☆	○	○	○
2	大腸がん予防事業	保健課			☆	○	○	○
3	健康増進事業	保健課			☆	○	○	○
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No. 1 健康づくり推進員活動事業

○取り組み内容(Plan)

行政と住民のパイプ役である健康づくり推進員(結核予防婦人会会員を兼ねる)の役割として、健康意識の向上と地域の健康の輪の拡大を目的としている。がん検診、特定健診等各種健(検)診の理解を深め、住民への健(検)診受診案内の配布と受診勧奨をさせていただいている。

○どのような施策を実施したか(Do)

健康づくり推進員の意識向上のため

- ①健康づくり推進員会議の開催:出席者116人
- ②健康づくり推進員研修会の開催:3回開催 参加者29人
- ③結核予防婦人会会員を兼ねていただいていることから、複十字シール募金時に、心身の疾病の早期発見のために各世帯に声掛けをお願いしている。
- ④保健課主催の市民公開講座等の講演会に参加していただいている。

○結果をどう分析するか(Check)

会議、研修会のアンケートの結果から、「推進員活動に活かせる内容であり、地域の人に教えてあげたい」と回答している人が多く、波及効果を期待する。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

粘り強く継続して実施していくことが最も効果的である。

有識者会議による検証・評価

- 意見
- ・対象者が推進員のものものも。広く市民が参加できような会に。
 - ・粘り強く継続して実施していくことを、促進していく方法、手だてを検討してほしい。
 - ・推進員活動は地域の人たちには伝わっていない。情報を地域に広めることに力を注いでいく地道な活動を大切にほしい。

見

評価

○

◎取組の深化・発展
△取組の見直し

○取組内容の継続
×取組の中止・終了

具体的施策No. **2** 大腸がん予防事業

○取り組み内容(Plan)

大腸がん検診受診率を向上させるために、大仙市出身の工藤進英先生が研究代表者であり、国立がんセンターが研究事務局となる『大腸がん研究(比較試験)』を行う。

○どのような施策を実施したか(Do)

平成21年度から開始され、平成23年度からは大仙市も加わり、研究参加者1万人を目標としている。研究参加者を便潜血検査(FOB)群とTCS群の2群に分けて、大腸がんによる死亡率をエンドポイントとして実施している。研究に参加した方は、その後9年間にわたり集団検診時のFOB結果を研究事務局に提供していただく。

○結果をどう分析するか(Check)

研究参加を呼び掛けることで大腸がん検診受診率も大幅に伸び、30%を超えている。また、研究参加者の目標には達していないものの、大仙市と併せ研究としてはほぼ達成したとみなされ研究の継続が決定されている。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

新規のリクルート(参加募集)は、28年度で終了であるが研究デザインが10年間のフォローアップを行うこととなり、平成37年度までFOB検査を実施する。研究結果の公表が世界的に待たれている状況であり、目標に向けFOB検査の継続受診を呼び掛ける。

有識者会議による検証・評価	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・幼少期からの健康づくりなどもからめてもらいたい。 ・研究参加の呼びかけはどんな方法で？チラシ等を気軽に手にできる所においてはどうか。 ・市民への周知を図っていく方法を検討してほしい。
	○
評価	<ul style="list-style-type: none"> ◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策No. **3** 健康増進事業

○取り組み内容(Plan)

がんの好発年齢者を対象とし、コール・リコールセンター(秋田県総合保健事業団)に委託し、電話により受診勧奨する。電話が繋がらない場合は郵送による受診勧奨をする。事業対象者については検診自己負担金を無料とする。

○どのような施策を実施したか(Do)

平成28年度は、県の補助対象者のうち肺がん・子宮がん・乳がん検診対象者に実施した。受診勧奨による検診受診実績は、肺がん検診 勧奨者1042人 受診者237人、子宮がん検診勧奨者382人 受診者 83人、乳がん検診 勧奨者 315人 受診者31人

○結果をどう分析するか(Check)

受診者に実施しているアンケートでは、「個人への通知がある」「個人への電話がある」「料金が無料である。」という回答が多数で、受診のきっかけとなっている。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

継続的に実施するとともに、対象者を拡大することにより受診率の向上に繋がると考える。

有識者会議による検証・評価	
意見	・継続的な実施を望む。
評価	○
	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	4	新たな地域社会の形成
具体的施策	4	市民が健康に暮らせる環境の整備

●KPIに対する実績評価

KPI	がん検診受診率	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		14.00%			18.79%		
目標達成率				22.8%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	高齢者生きがい通所事業	長寿支援課			☆	◎	○	○
2	高齢者共同生活支援事業	長寿支援課			☆	◎	○	○
3	緊急通報装置給付貸付事業	長寿支援課			☆	◎	○	○
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	高齢者生きがい通所事業
----------	---	-------------

○取り組み内容(Plan)

市内に居住する概ね65歳以上の高齢者で介護保険法によるサービスを受けることができない者に対し、仙北市多世代交流施設を活用し、生きがい感の高揚や高齢者の方が永年住み慣れた地域社会で生活を維持できるよう、また健康維持を支援し、通所事業を実施

○どのような施策を実施したか(Do)

- ・多世代交流施設『山鳩館』 開館日時 火～金 10:00～16:00 職員3人雇用(うち1日2人に対応)
- ・生活指導(相談活動) 機能訓練(日常動作訓練) 健康状態の確認 入浴サービス 送迎 他
- ・平成28年度 実利用者数 16人 利用料1日300円
- ・生きがい活動の一環として、りんご刈り、ひのきない保育園児との交流会、足マッサージ講習会を実施

○結果をどう分析するか(Check)

利用者が元気を維持するための場として活用されているが、利用者は、長年利用している方が多く高齢化している。施設の設置場所と送迎の関係から利用可能な方の地域が特定されつつあるため、新規の利用者がなかなか増えずにいる。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

一人暮らし高齢者の閉じこもり等防ぐため、また、健康寿命の延伸とともに地域における高齢者相互の支え合い体制が必要と考えられる。

有識者会議による検証・評価

・対象者やその予備軍を把握し、事前に対応を図っていくことが大切。

・相談活動、機能訓練を行えるような職員の資質が必要。

・通所者がそこで体験できる活動がマンネリ化していないか。Checkが必要。

意見
見
・多世代に開放し、多世代の交流活動ができる場に。

評価	○
	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策No. **2** 高齢者共同生活支援事業

○取り組み内容(Plan)

家庭の事情等により養護を必要とする高齢者に対して、一時的に施設において養護することにより高齢者及びその家族の日常生活を支援し健康に暮らせる環境の整備を行う。

○どのような施策を実施したか(Do)

- ・11月～翌年4月までの期間、社会福祉法人県南ふくし会が運営する特別養護老人ホーム清流苑内の居室7室を利用し、高齢者共同生活支援事業を実施。
- ・1人部屋が6部屋、2人部屋が1部屋で8人利用可能 利用料1日2,260円(生活保護受給者は1,330円)
- ・平成28年度 実利用者数 11人 延べ利用日数 1,302日

○結果をどう分析するか(Check)

冬期間在宅での生活が困難な高齢者が、設備の整った施設で暮らすことにより安全を確保し健康に暮らせる環境づくりに役立っている。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

利用期間、利用人数が決まっているため増やすことは出来ないが、事業を継続していくことにより効果が得られる。

有識者会議による検証・評価	
意見	・拡充の方向性を探っていくのも一案では。
評価	○
	◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了

具体的施策No. **3** 緊急通報装置給付貸付事業

○取り組み内容(Plan)

ひとり暮らし高齢者、又は身体障がい者等に対し、緊急通報装置を給付、貸与することにより急病や災害時に迅速かつ適切な対応を図ることを目的として実施

○どのような施策を実施したか(Do)

・緊急通報装置は、青ボタンと赤ボタンの2つのボタンがついており、青ボタンは、生活相談等、赤ボタンは、緊急通報となっていて、月曜日～金曜日までは仙北市社会福祉協議会へ、土日祭日は秋田県社会福祉協議会へ通報できるシステムとなっている。緊急時には協力員や関係機関へも連絡が入り、見守り体制ができています。

・平成28年度末 設置台数 55台 (うち、新設6件 撤去18件)

・月額利用料 600円

○結果をどう分析するか(Check)

設置台数は減ってきているが、民生委員や社会福祉協議会への生活相談等を通じ貸与していることから、利用ニーズに応えることが出来ていると考える。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

年々利用者は減ってきているが、緊急時だけでなく生活相談等にも応じているため必要な事業となっている。また、定期的な安否確認を委託先の仙北市社会福祉協議会から出向いてもらうことにより効果が得られると考える。

有識者会議による検証・評価	
意見	<p>・年々利用者が減ってきている理由を検討し、対策を。</p> <p>・地域社会の中での結びつきや関わりを深められるような対策を。</p>
	○
評価	<p>◎取組の深化・発展 ○取組内容の継続 △取組の見直し ×取組の中止・終了</p>

H28年度総合戦略評価・検証シート

基本目標	4	新たな地域社会の形成
具体的施策	4	市民が健康に暮らせる環境の整備

●KPIに対する実績評価

KPI	がん検診受診率	(基準値)H26	H27	H28	H29	H30	(目標値)H31
		14.00%			18.79%		
目標達成率				22.8%			

●各施策の実施状況

具体的施策		担当課	実施状況(◎実施中 ○実施予定 △未実施 ☆実施済)					
1	国民健康保険人間ドック助成事業	市民生活課			☆	○	○	○
2								
3								
4								
5								

●具体的施策に対するPDCA

具体的施策No.	1	国民健康保険人間ドック助成事業
----------	---	-----------------

○取り組み内容(Plan)

仙北市国保では、被保険者の減少、高齢化率の上昇とともに、生活習慣病等の重症化による医療費の増加により、厳しい財政が続いていることから、様々な疾病の発症を予防、早期の発見、また発症した場合でも重症化を予防することで、係る医療費を抑制し、市民の健康寿命の延伸と医療に係る負担を軽減する体制を構築します。

○どのような施策を実施したか(Do)

仙北市国民健康保険短期人間ドック助成事業

生活習慣病等の予防等を目的にした特定健診の対象者(40歳～74歳)を35歳からに拡大し、人間ドック受診に係る費用に対し、21,000円を助成する。

市立田沢湖病院、市立角館総合病院、大曲厚生医療センターを健診指定病院とし、年間人間ドック受診者数は160人であった。

○結果をどう分析するか(Check)

近年、受診者数は5件から8件くらいずつ増加してきてはいるが、平成28年度は、前年度よりも20件の増加となった。

事業は、微々たるものではあるが、ドックを受診しようとする意識は増加しているので、これを足掛かりに更なる周知を図りながら、特定健診の受診率向上と生活習慣病等の重症化予防を徹底し、医療費の抑制に繋げたい。

○どうすればより効果が得られるのか(Action)

人間ドックのPRを図るとともに、関連する特定健診等を実施している保健課などと連携を密にする必要がある。

健診の受診機会の増加やフォローアップ体制を構築し、アピールする機会を作ることが必要と思われる。

有識者会議による検証・評価	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に周知していく方法を検討。 ・健康づくりの一つの場としての病院施設等の利活用。
	○
評価	◎取組の深化・発展 △取組の見直し
	○取組内容の継続 ×取組の中止・終了